

# **SEKONIC**

## **露出計**

## **使用説明書**

## **デジタルマスター**

## **L-758D**

## **L-758** *CINE*

お買いあげありがとうございます。

この使用説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

# 正しく安全にお使いいただくために

ご使用になる前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。

 **警告** このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が死亡、または重傷を負う可能性があることを示す警告マークです。

 **注意** このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合、製品の使用者等が軽傷、または中程度の傷害を負う可能性がある状況、または物的損害が予想される危険状況を示す注意マークです。

**ご注意** 操作をする上での注意や制限です。誤った操作をしないために、必ずお読みください。

**ご参考** 操作の参考になることや、関連した機能などについての情報です。お読みになることをお勧めします。

 **警告**

乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

乳幼児等が誤ってシンクロターミナルキャップを飲み込まないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱、充電は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガ、周囲を汚染する原因となります。

 **注意**

雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は、感電の危険がありますのでシンクロターミナルキャップを外さずに「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

目に傷害を及ぼす恐れがありますので、ファインダーを通して太陽を直接覗かないでください。

本体の分解、改造は絶対に行わないでください。

# 目次

---

正しく安全にお使いいただくために

## 目次

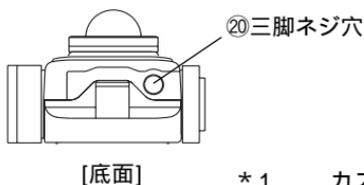
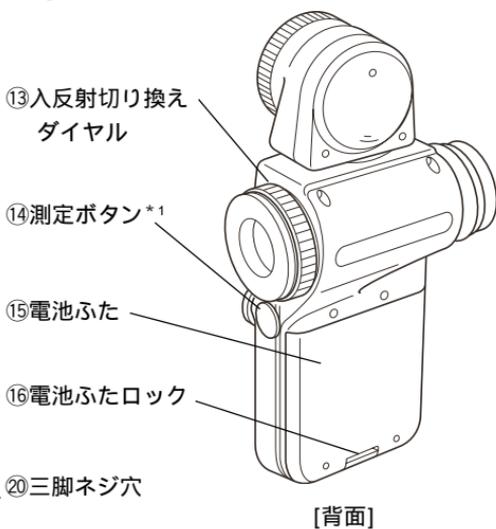
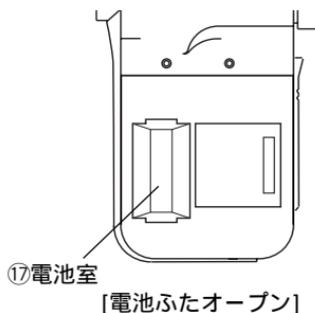
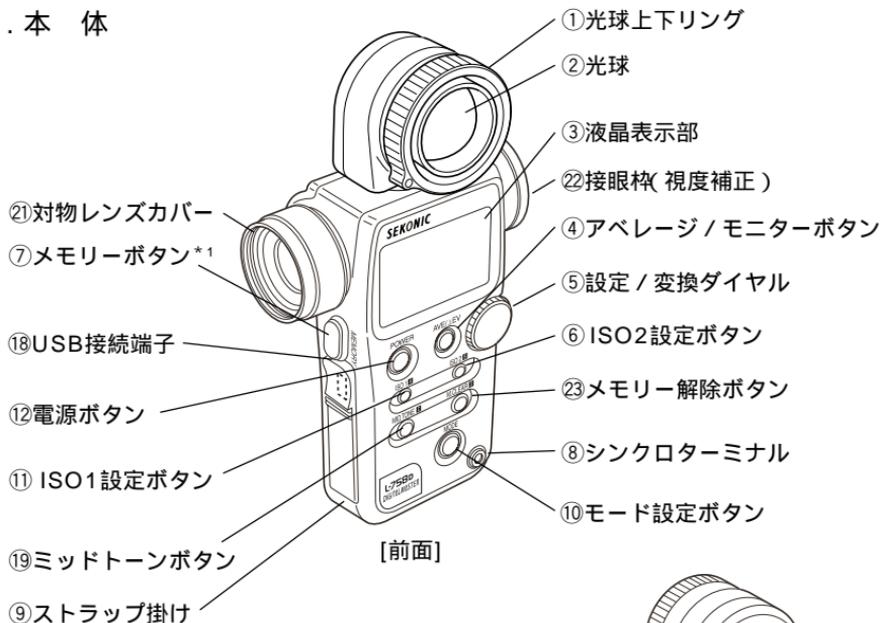
1. 各部の名称	1
1. 本体	1
2. 同梱付属品	2
2. 液晶表示部の説明	3
3. ご使用前に	7
1. ストラップの付け方	7
2. 電池の入れ方	7
3. 電池容量の確認	8
4. 測定中やメモリー機能使用中の電池交換	8
5. 自動電源 OFF 機能	9
6. 第 1 ISO 感度の設定	9
7. 第 2 ISO 感度の設定	9
8. 設定 / 変換ダイヤルのロック及び解除	10
9. 測定ボタンとメモリーボタンの設定	11
4. 基本操作	12
1. 受光方式の設定	12
2. 測定モードの設定	13
3. 入射光式で測定する場合	15
4. 反射光式で測定する場合	16
5. 測定	17
1. 定常光の測定	17
1-1 シャッター速度優先モードの測定	17
1-2 絞り優先モードの測定	19
1-3 EV モードの測定	20
1-4 シネカメラ撮影時の測定	21
2. フラッシュ光の測定	24
2-1 フラッシュ光コード接続モードの測定	24
2-2 フラッシュ光コードレスモードの測定	28
2-3 フラッシュ光コード接続積算(マルチ) モードの測定	30

---

2-4 フラッシュ光コードレス積算 (マルチ)	
モードの測定	32
2-5 分離測光機能	34
6. 機能	36
1. メモリー機能	36
2. アベレージ機能	38
3. モニター機能	39
4. 簡易照度計としての使い方	41
5. 簡易輝度計としての使い方	42
6. 指示値補正機能の使い方	43
7. フィルター設定について	45
7-1 フィルター設定 (1)	45
7-2 フィルター設定 (2)	46
8. カスタムセッティング機能	47
7. カメラの露出プロファイル	49
1. カメラの露出プロファイルとは	49
2. テスト結果の入力	51
2-1 アプリケーションソフト	51
2-1-1 ソフトの概要説明	51
2-2. 露出計へのマニュアル入力	52
3. 露出計での操作方法	55
3-1 カメラ露出プロファイルの設定	55
3-2 アナログスケール	55
3-2-1 絞り値スケール	55
3-2-2 ゼロ目スケール	56
3-2-3 Mid.Tone ボタン	57
8. 別売アクセサリ	59
9. 仕様	61
10. 使用上のご注意	63
11. アフターサービスについて	65

# 1. 各部の名称

## 1. 本体



\* 1..... カスタムセッティング機能 (P47参照) により、ボタンの切替が可能です。

# 1. 各部の名称

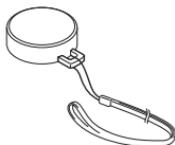
## 2. 同梱付属品

添付もれが無いが、開梱後すぐにご確認してください。

- ②④ シンクローターミナル  
キャップ(本体取付済)



- ②⑥ 対物レンズキャップ  
(本体取付済)



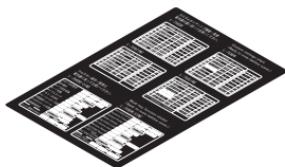
- ②⑤ ストラップ



- ②⑦ CD-ROM  
(ソフトウェア、USBドライバー、  
使用説明書、ソフトウェアガイド)



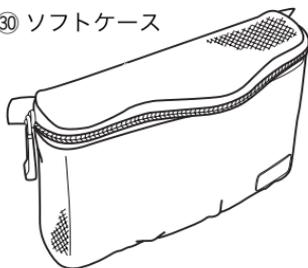
- ②⑧ マルチキー操作 &  
カスタム設定シール



- ②⑨ クイックガイド



- ③⑩ ソフトケース



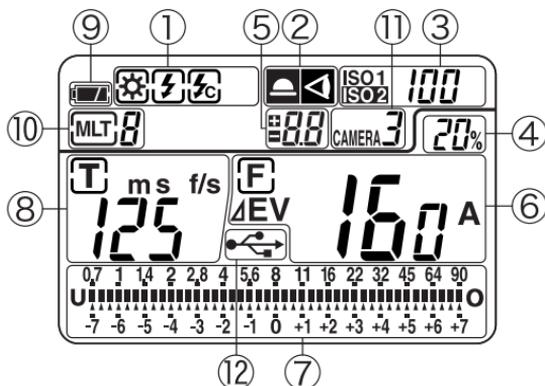
- ③⑪ 安全上のご注意



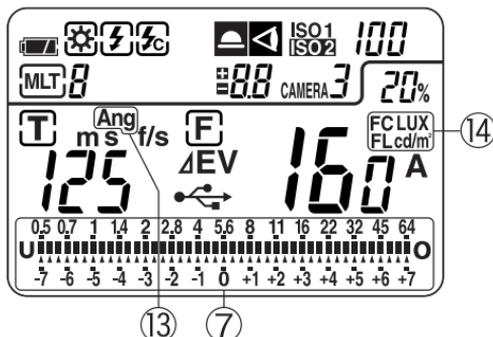
## 2. 液晶表示部の説明

本表示は説明のため、実際とは異なります。

L-758D の場合

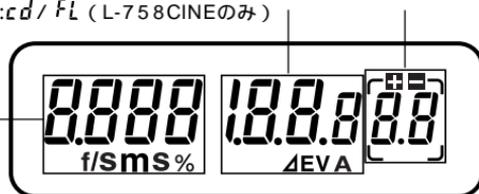


L-758CINE の場合



ファインダー内表示

設定時：  
 分離測光後：  
 輝度モード :  $cd / fL$  (L-758CINEのみ)



入射光式測定の際は表示されません。

## 2. 液晶表示部の説明

### 測定モード表示部

-  定常光の測定 (P17参照)
-  フラッシュ光コ・ドレスモード (P28参照)
-  フラッシュ光コ・ド接続モード (P24参照)

### 受光方式表示部 (P12参照)

-  入射光式測定の時、点灯します。
-  反射光式測定の時、点灯します。

### 第1 ISO / 第2 ISO 表示部 (P9参照)

**ISO1** 第1 ISO感度を表示します。

**ISO2** ISO2設定ボタンが押された時、ISO2で設定された第2 ISO感度を表示します。

### フラッシュ光成分比表示部 (P34参照)

**%** 全光量に対するフラッシュ光成分比を10%ステップの数値で表示します。

### 指示値補正表示部 (P43参照)

  指示値補正--- 指示値補正が設定されている時、表示します。

### 絞り値 / モニター値 / EV値 / アベレージ値表示部

 絞り優先測定の時、点灯します。(P19参照) (ファインダー内では表示しません。)

**ΔEV** モニター測定の時、点灯します。(P39参照)

**EV** EV測定の時、点灯します。(P20参照)

**A** アベレージ測定の時、またはモニター測定の基準値を設定した時、点灯します。  
(P38参照)

### アナログスケール

絞りまたはゼロ目スケールの上または下に、1/3段単位で最終測定値 / メモリー値 / モニター値 / アベレージ値をドットで表示します。

・絞りスケール(スケール上側)---L-758Dはf0.7からf9.0まで、L-758CINEはf0.5からf6.4まで一段刻みで表示されています。

絞り優先モード以外のすべてのモードで表示されます。

・ゼロ目スケール(スケール下側)---ミッドトーンから±7段までが、絞り優先、または積算以外のモードで選択した場合に表示されます。

絞りまたはゼロ目スケールの上または下に、最終測定値 / メモリー値 / モニター値 / アベレージ値として表示されます。

## 2. 液晶表示部の説明

---

-  表示範囲外アンダーの時、点灯します。(P18参照)
  -  測定範囲外アンダーの時、点滅します。(P18参照)
  -  表示範囲外オーバーの時、点灯します。(P18参照)
  -  測定範囲外オーバーの時、点滅します。(P18参照)
- 選択したカメラの露出プロファイルに基づき、一番外側が許容範囲、内側が再現領域を表示します。

### シャッター速度/シネコマ数表示部

設定に応じ、シャッター速度又はシネコマ数を表示します。

-  シャッター速度優先測定の時、点灯します。(P17参照) {ファインダー内では表示しません。}
- m** シャッター速度が分単位の時、点灯します。(P17参照)
- S** シャッター速度が秒単位の時、点灯します。(P17参照)
- f/s** シャッター速度がシネコマ数の時、点灯します。(P21参照)

### 電池容量表示部 (P8 参照)

### 積算マーク/メモリーマーク/回数表示部

-  積算モードにすると点灯し、測定ボタンを押した回数を表示します。(P30参照)
- M**  測定値をメモリーすると点灯し、メモリーした回数を表示します。(P36参照)

### カメラの露出プロファイル選択表示部

#### USB 表示部

-  露出計とパソコンがUSBケーブルで通信されている時に表示します。

### シャッター開角度 (L-758CINE)

- Ang** シャッター速度がシネコマ数でシャッター開角度が180°以外の時、点灯します。

## 2. 液晶表示部の説明

照度マーク / 輝度マーク (L-758CINE)

**FC** : 入射時の照度( フートキャンドル)

**LUX** : 入射時の照度( ルクス)

**FL** : 反射時の輝度( フートランバート)

**cd/m<sup>2</sup>** : 反射時の輝度( キャンドル/平方メートル)

液晶バックライト (EL)

測定を行っている場所が暗い時 (EV6以下) 測定後明るさを感じて自動的に液晶表示部が照明されます。

測定中、及びフラッシュ光コードレス待機時は、測定値に影響を及ぼすため、照明されません。

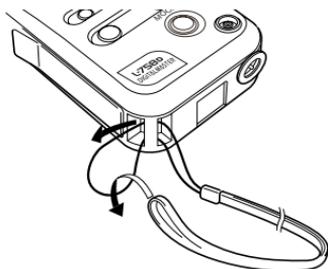
液晶の照明は各ボタンの操作後、約20秒で自動的に消灯されます。

測定の場所と手元の場所で明るさの差が大きいと液晶バックライトが点灯しないことがあります(スポット測定時等)。この時は受光部(光球部)を手で覆いモード設定ボタンを押すと、液晶バックライトを点灯させることができます。

### 3. ご使用前に

#### 1. ストラップの付け方

- 1) ストラップ⑳をストラップ掛け㉑側面の穴から通します。
- 2) ストラップ先端の輪の中にストラップの反対側を通してください。

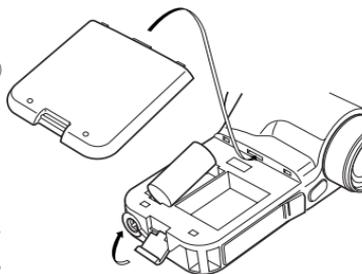


#### ⚠ 警告

乳幼児等が誤ってストラップを首に巻くことのないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。

#### 2. 電池の入れ方

- 1) リチウム電池CR-123Aを1本用意します。
- 2) 電池ふたロック⑯をはずし、電池ふた⑮を開けます。
- 3) 電池室⑰の+ - 表示に合わせて入れてください。
- 4) 電池ふたの爪を本体の穴に合わせて、矢印のように上から押し付けながら、電池ふたロックをかけます。



#### ご注意

電池接片の腐食及び防水機能の低下を防ぐため、電池ふたのゴムパッキンにゴミや砂が付着しないようにしてください。電池の液漏れ等で本機に影響を与えることがありますので、長期間ご使用にならない時は電池を取り出して保管してください。液晶が表示されない場合は、電池容量が充分あるか電池が+ - 逆に挿入されていないかを確認してください。

#### 3. 電池容量の確認

電源ボタン⑫をONすると液晶表示部⑬に電池容量を示すマークが表示されます。



点灯 電池容量は十分です。



点灯 予備の電池を用意してください。



点滅 直ちに電池を交換してください。

#### ご参考

- ・電池が入っていない、または電池容量がない状態では、電源ONした後、液晶表示部が現れ、すぐに表示が消える場合がありますが、故障ではありません。予備の電池に交換してください。予備の電池は常時携帯することをお勧めします。
- ・予備の電池はソフトケース底に「OPEN END TO BACK」のシールの付いたプロテクターの中に収納できます。
- ・連続測光した場合、本機の電池寿命は常温で約60時間(当社試験条件)です。

#### 4. 測定中やメモリー機能使用中の電池交換

- 1) 必ず電源を「OFF」してから電池交換を行ってください。電源「ON」のまま電池を取り出すと、メモリーされている測定値や設定値を呼び出すことができなくなります。
- 2) 電池交換後または測定中、液晶表示部に異常な表示(設定していない表示等) または操作ボタンを押しても動作しない時などは、電池を一度取り出し10秒以上経過してから入れ直してください。この現象は本機の構成上、発生する場合があります、故障ではありません。

#### ⚠ 警告

電池を火の中に入れたり、ショート、分解、加熱、充電は絶対しないでください。電池が破裂し火災、ケガ、周囲を汚染する原因となります。

#### ご注意

電源ボタンのON/OFFの間隔は3秒以上あけてください。

### 3. ご使用前に

#### 5. 自動電源 OFF 機能

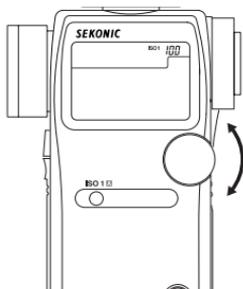
- 1) 省電力設計のため使用后(最後にいずれかのボタン操作後)約20分で自動的にすべての表示が消え電源はOFFとなります。
- 2) 自動電源OFF機能が働いた場合と、電源ボタン⑫をOFFした場合のいずれでも設定値・測定値は記憶されており、電源ボタンをONすることで再表示されます。

#### ご参考

- ・ 電源ボタンが押されたままの状態になると約1分後に自動的に電源が切れます。
- ・ 自動電源OFFになる時間はカスタム設定にて選択できます。(P47 参照)

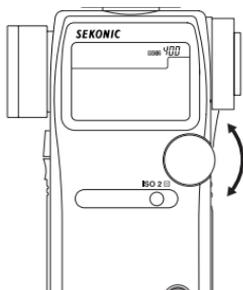
#### 6. 第1 ISO 感度の設定

- 1) ISO1 設定ボタン⑪を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回して、使用する第1 ISO 感度を設定します。
- 2) ISO 感度の変更は、測定後でも行えます。測定後にISO 感度を変えると新たに換算された測定値を表示します。



#### 7. 第2 ISO 感度の設定

- 1) 異なったISO 感度を使用する場合や露出補正(フィルター使用、接写、ハイライト / シャドー基準等)をする場合に使用します。
- 2) ISO2 設定ボタン⑥を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回して、第2 ISO 感度を設定します。



### 3. ご使用前に

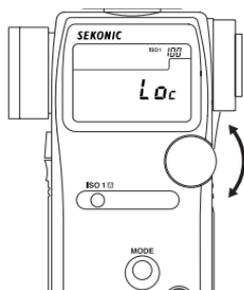
- 3) この設定をしておくと、測定後にISO2 設定ボタンを押している間、設定されている第2 ISO 感度の測定値を表示します。
- 4) 第2 ISO 感度の変更は6の2項(P9 参照)と同様に可能です。

#### ご参考

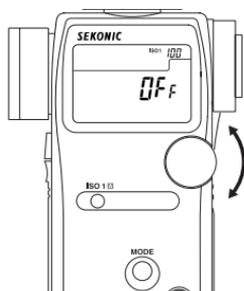
- ・カスタムセッティング機能P47 参照を利用すると下記の設定ができます。
- 1) 1/10 ステップで± 5EV の範囲内で補正量を設定することができます。(P45 参照)
- 2) 映画撮影時に使用頻度の高い7種類のフィルター(コダック製ラッテンフィルター)が設定できます。(L-758CINE)  
(P46 参照)

#### 8. 設定 / 変換ダイヤルのロック及び解除

- 1) モード設定ボタン⑩とISO1 設定ボタン⑪を同時に押すと“LOC”と表示され、それ以降は設定 / 変換ダイヤル⑤を回しても設定値、測定値は固定されて変わりません。但し、測定ボタン⑭を押すと設定値は変わらず新たな測定値を表示します。



- 2) 再度モード設定ボタンとISO1 設定ボタンを同時に押すと、“OFF”と表示され、ロックは解除されます。



#### ご参考

- ・ロック状態で電源OFF、またはオートOFFされた場合は、次に電源がONされた時もダイヤルロック機能が継続されています。

### 3. ご使用前に

#### 9. 測定ボタンとメモリーボタンの設定

カスタムセッティング (P.47 参照) により、測定ボタンとメモリーボタンが下記のように設定できます。

##### 1) 入射光式を主体にお使いになる方

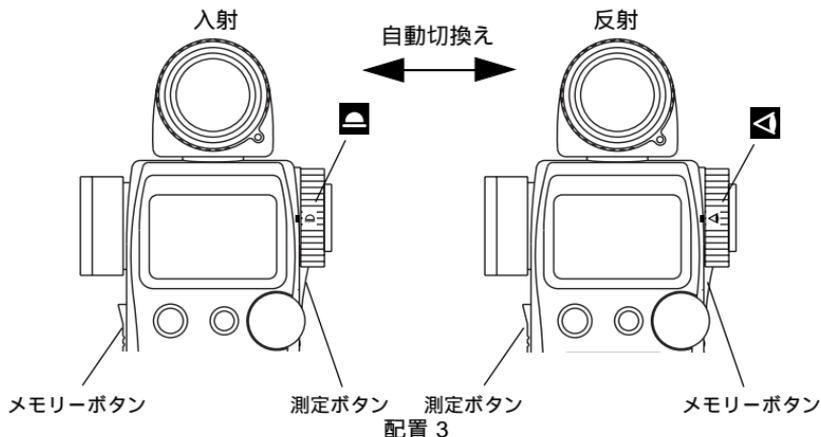
測定ボタン/メモリーボタンは、標準仕様 (P.1の各部の名称に記載されているとおり) となります。カスタムセッティングの初期設定 (設定番号 17 の項目番号 0) でご使用ください。

##### 2) 反射光式 (スポット) を主体にお使いになる方

1) のボタン位置では、スポット測光が不便な場合、測定ボタンとメモリーボタンを逆に切換えることが可能です。カスタムセッティングにて、設定番号 17 の項目番号 1 を選択してください。

##### 3) 入射 / 反射 (スポット) とともにお使いになる方

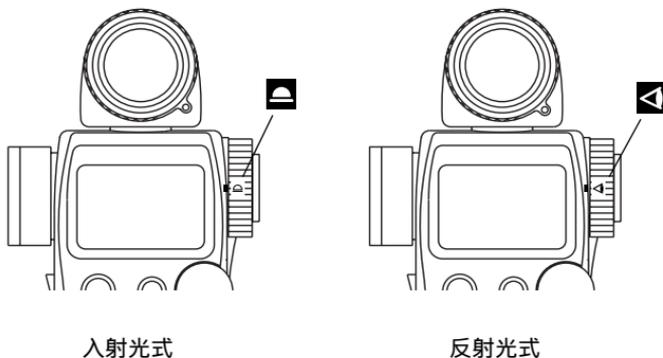
入射光式の場合は標準の位置となります。反射光式 (スポット) の場合は、受光方式によって自動的にボタンを切換えることも可能です。カスタムセッティングにて、設定番号 17 の項目番号 2 を選択してください。



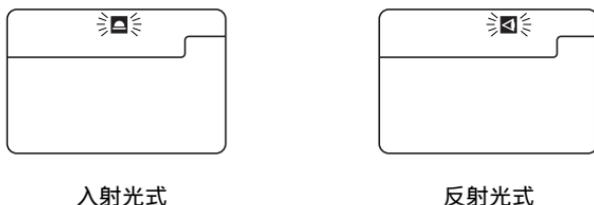
## 4. 基本操作

### 1. 受光方式の設定

- 1) 入射光式と反射光式の切り換えは接眼部にある入反射切り換えダイヤル<sup>⑬</sup>をクリックする位置( 、マ - ク)まで確実に回して、使用する受光方式に切り換えます。



- 2) 入射光式にするとマ - クが、反射光式にするとマ - クが、10秒間液晶表示部に点滅します。



### ご注意

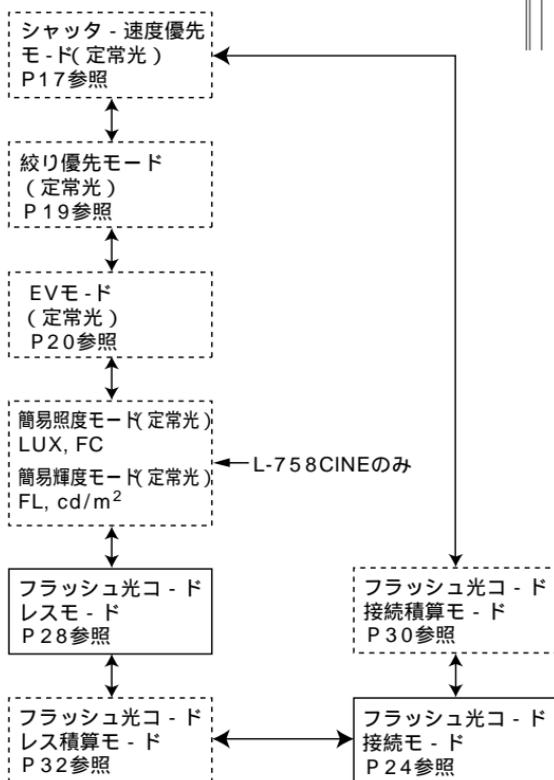
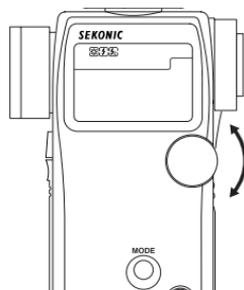
測定を行う前に必要な受光方式( 、 )になっていることを液晶表示部又は入反射切り換えダイヤルにて確認してください。対物レンズカバーは回さないでください。破損する恐れがあります。

## 4. 基本操作

### 2. 測定モードの設定

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して使用するモードを選択します。

測定モードは下図のような順序で測定モードが切り換わります。



- 2) 図で.....点線で囲まれたモードはカスタムセッティング機能 (P47 参照) を使うことにより、各モードの表示有無を選択できます。

- 3) L-758CINEでは露出計用各モードに加え、反射設定時は輝度測定モードが、入射設定時は照度測定モードが表示されます。

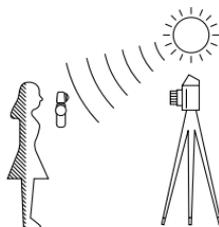
### ご参考

- ・定常光とは、自然光(太陽光)またはタングステンランプ・蛍光灯のような連続光のことです。
- ・フラッシュ光とは、フラッシュまたはフラッシュバルブ(閃光電球)のような瞬間光のことです。

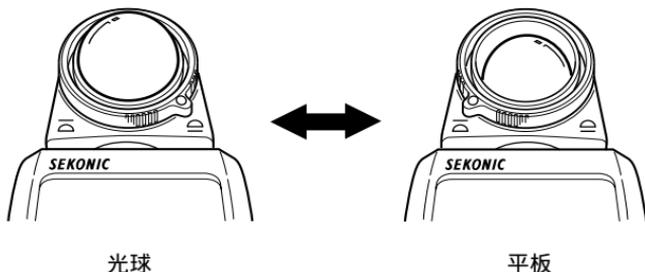
## 4. 基本操作

### 3. 入射光式で測定する場合

入射光式の測定は、光球が平板機能を使って測定する方法です。被写体位置で光球をカメラのレンズ（正しくはレンズの光軸方向）に向けて測定します。



- 1) 光球と平板機能の切り換えは、光球上下リング①をクリックする位置まで確実に回して、切り換えてください。



- 2) 光球を上げた場合

人物や建物など立体的な被写体を測定するとき 사용합니다。

- 3) 光球を下げた場合（平板機能）

原稿、書籍、絵画など平面的な被写体を測定するときまたは、照明比の測定（P39参照）、簡易的に照度を測定（P41参照）するとき 사용합니다。

### ご注意

光球上下リングを中間位置で使用すると、配光特性が変わり適正な測定ができません。

光球を手で押し込むことはしないでください。

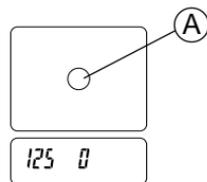
光球は大切な受光部です。傷や汚れを付けないように扱ってください。光球が汚れたとき、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）は絶対に使用しないでください。

### 4. 反射光式で測定する場合

この方法は被写体に当たって反射した光の明るさ（輝度）を測る方法で、被写体位置まで近づけない場合や発光する被写体（ネオン等）透過光（ステンドグラス等）を測定する場合に適しています。カメラ位置、またはカメラ方向から被写体の測定したい部分に露出計のレンズを正しく向けて測定します。



- 1) ファインダー - 内のサ - クルを被写体の測定部位に合わせて測定します。
- 2) ファインダー内の黒いサークル①の内側が測定範囲です。受光角度は $1^{\circ}$ です。



（ファインダー内表示）

#### 《視度の調整》

ファインダー - を覗きサークルがはっきり見えるように接眼枠②を回して視度調整してください。

#### 《ステップアップリング》（別売）

ステップアップリング（30.5mm 40.5mm）を別売付属品として用意しましたので、フィルターを取り付けることが可能です。これによりPLフィルター等の煩わしい補正値を計算することなく露出決定できます（P45参照）。

また、ステップアップリングはレンズ部をキズ、汚れから保護し、レンズフレアやグレアによる誤測光を防ぐフードとしてもご利用いただけます。

## 5. 測定

### 1. 定常光の測定

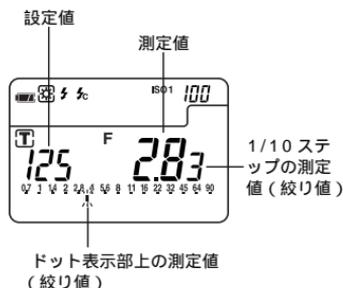
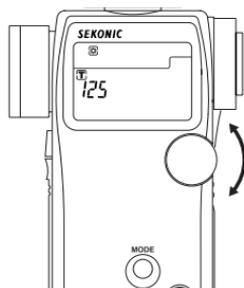
この測定方法には、シャッター速度優先、絞り優先、EV 値の各測定モードがあります。モード設定ボタン を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回して設定 / 変換ダイヤル⑤を回して 定常光モードに切り換えます。

#### 1-1 シャッター速度優先モードの測定

1) モード設定ボタン を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回して T シャッター速度優先モードにします。

2) 設定 / 変換ダイヤルを回して希望のシャッター速度に設定します。

3) 測定ボタン ⑭ を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値 (絞り値) が表示されます。測定ボタンを押している間は、連続測定します。



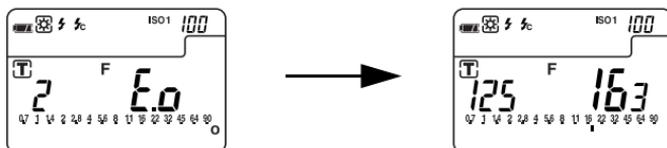
### ご参考

- ・シャッター速度の段数はカスタムセッティング機能により 1 段、1/2 段、1/3 段毎のステップに切り換えることができます。(P47 参照)
- ・設定できるシャッター速度は 30 分、25 分、20 分.....1 分、50 秒、45 秒.....1 秒、0.8 秒、0.7 秒、.....1/3、1/4、.....、1/30、1/40、1/45、1/50、1/60、1/80、1/90、1/100、1/125、1/160、1/180、1/200、1/250、.....1/4000、1/5000、1/6000、1/6400、1/8000 秒です。1/8000 秒の次に 1/200、1/400 秒が別に設定できます。

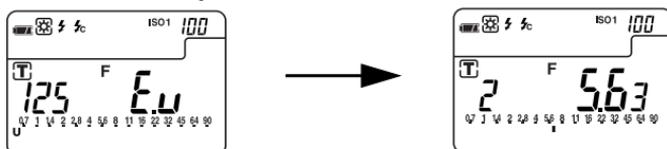
## ご参考

- 測定後、設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。
- 液晶のドット表示部には 1/3 段ステップで測定された絞り値が表示されます。L-758D は F0.7 ~ F9.0、L-758CINE は F0.5 ~ F6.4 のスケールとなっています。絞りまたはゼロ目スケールの変更は、モード設定ボタンを押しながらアベレージ / モニターボタンを押すことによって切り替えることができます。
- 本機の測定範囲内であっても、設定されたシャッター速度では最大絞り値 (F128) でも露出オーバーとなる E.o マーク、または最小値 (F0.5) でも露出アンダーとなる E.u マークの表示をすることがありますので下記のように対応してください。

表示範囲を超えてオーバー (E.o) となるときは、設定 / 変換ダイヤル⑤を回してシャッター速度を高速側に変更すると、それに応じて適正な絞り値を表示させることができます。

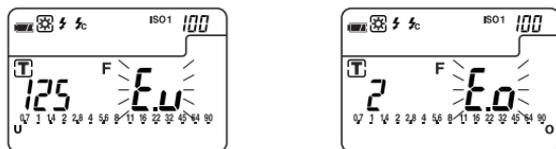


表示範囲を超えてアンダー (E.u) となるときは設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を低速側に変更すると、それに応じて適正な絞り値を表示させることができます。



## ご参考

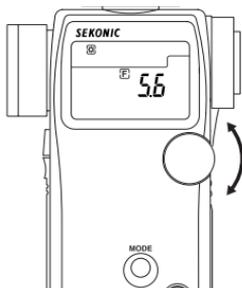
- 本機の測定範囲を越える明るさ (または暗さ) の時は E.o (または E.u) が点滅表示し、測定できないことを表します。この場合は明るさを調節してください。



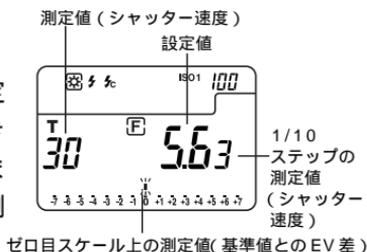
## 5. 測定

### 1-2 絞り優先モードの測定

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定/変換ダイヤル⑤を回して[F]絞り優先モードにします。
- 2) 設定/変換ダイヤルを回して希望の絞り値に設定します。



- 3) 測定ボタン⑭を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値(シャッター速度)が表示されます。測定ボタンを押している間は連続測定します。



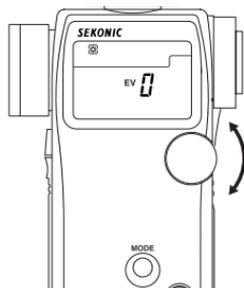
### ご参考

- ・絞り値の表示ステップはカスタムセッティング機能により1段、1/2段又は、1/3段のステップに切り換えることができます。(P47参照)
- ・設定できる絞り値はF0.5、0.56、0.63、.....4.0、4.5、4.8、5.0、5.6、6.3、6.7、7.1、8.0、9.0、9.5、10、11、13、14、16、18、19、20、22.....64、72、76、81、90、102、108、114、128、144、152、161が設定できます。(0.56は $ab$ 、0.63は $bb$ と表示します。)
- ・液晶のアナログスケールは、絞り優先モードのときには、ゼロ目スケールのみが表示され、基準値とのEV差が1/3段ステップで表示されます。詳しくはP56を参照してください。
- ・測定後に設定/変換ダイヤルを回して絞り値を変えると、それに対応するシャッター速度を表示させることができます。
- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定(P17参照)を参考として絞り値を変更するか明さを調節して対応してください。

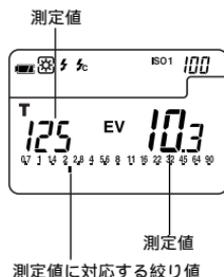
## 1-3 EVモードの測定

このモードはカスタム設定で表示するよう設定した場合に使用できます。  
(P47 参照)

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回して「EV」モードにします。



- 2) 測定ボタン⑭を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値 (EV 値) を表示します。同時にシャッター速度に対応する絞り値がドット表示され、点滅します。測定ボタンを押している間は連続測定します。



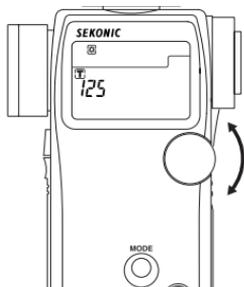
## ご参考

- ・ EV値とはシャッター速度と絞り値で組み合わせられる一定の光量に対数的に表したものです。1EV 変化すると光量は倍 (または 1/2) になります。
- ・ ISO100、絞り値F1.0、シャッター速度1秒の時をEV0とし、それより絞りを1段絞るか、シャッター速度を1段速くする毎に数値が1ずつ増していくように定めた表示方法です。
- ・ EVモードを表示するには、カスタムセッティングモードで設定番号5と項目番号1を選択してください。(P47 参照)
- ・ 測定範囲外オーバー / アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定 (P17 参照) を参考として明るさを調節して対応してください。
- ・ モード設定ボタンを押しながら、アベレージ / モニターボタンを押すことにより、絞りスケールからゼロ目スケールへ切替ができます。

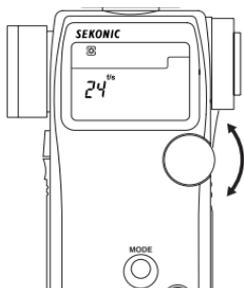
## 5. 測定

### 1-4 シネカメラ撮影時の測定

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して、定常光の⑦シャッター速度優先モードに切り換えます。



- 2) 設定 / 変換ダイヤルを回して使用するシネカメラのシネコマ数を設定します。



シネコマ数の設定は.....1/8000、1/200、1/400の次から表示され、単位はf/sとなります。

[ L-758D ] では

設定できるシネコマ数は2、3、4、6、8、12、16、18、24、25、30、32、36、40、48、50、60、64、72、96、120、128、150、200、240、256、300、360が設定できます。

[ L-758CINE ] では

設定できるシネコマ数は1、2、3、4、6、8、10、12、14、16、18、20、24、25、30、32、36、40、48、50、60、64、72、75、90、96、100、120、125、128、150、180、200、240、250、256、300、360、375、500、625、750、1000が設定できます。

- 3) 設定されているシネカメラのシャッター開角度は 180 度です。  
 これ以外の開角度の場合は以下のようにISO感度等で補正してください。  
 (L-758D の場合)

シャッター開角度	ISO感度補正量
160°	- 1 / 3
220°	+ 1 / 3

#### 補正量について

- 1/3 : ISO 感度の設定を 1/3 段小さい値にする  
 例 ISO 80    64
- + 1/3 : ISO 感度の設定を 1/3 段大きい値にする  
 例 ISO 80    100

#### 4) シャッター開角度設定 (L-758CINE のみ)

モード設定ボタン⑩とISO2設定ボタン⑥を押しながら設定 / 変換ダイヤル⑤を回転させ希望の開角度に設定します。

#### ご注意

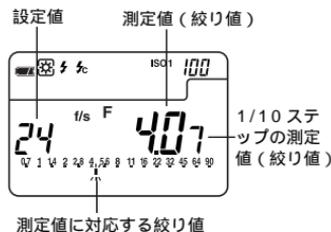
設定できるシャッター開角度 1° ~ 10° (1° ステップ) \ 15° ~ 270° (5° ステップ) と 12° (= 11.25°) \ 17°、22° (= 22.5°) \ 144°、172° が設定できます。  
 シャッター開角度が、180° 以外に設定されている時は液晶表示部 “ Ang ” が常時表示されます。  
 シャッター開角度の設定値は、常時表示されていないため、確認したい場合は、モード設定ボタンとISO2設定ボタンを押してください。

#### ご参考

- ・ この設定はシネモードでシャッター速度がシネコマ数表示 (f/s) の時だけ有効です。

## 5. 測定

- 5) 測定ボタン⑭を押して測定します。測定ボタンを離すと測定が完了し、そのときの測定値(絞り値)が表示されます。測定ボタンを押している間は連続測定します。



### ご参考

- ・モード設定ボタンを押しながらアベレージ/モニターボタンを押すと、絞りまたはゼロ目スケールの切替ができます。
- ・液晶のドット表示部には1/3段ステップで測定された絞り値が表示されます。(L-758DはF0.7 ~ F9.0、L-758CINEはF0.5 ~ F6.4が表示されています。)
- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては1-1項の「シャッター速度優先モード」の測定(P17参照)を参考としてシネコマ数を変更するか、明るさを調節して対応してください。

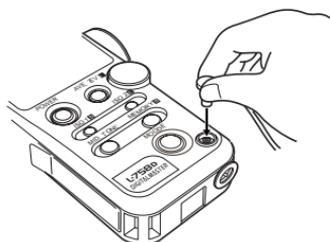
## 2. フラッシュ光の測定

この測定方法には、コード接続、コードレス、コード接続積算、コードレス積算の各測定モードがあります。フラッシュ光を測定すると、液晶表示部にシャッター速度と絞り値(定常光とフラッシュ光をミックスした値=全光量)が表示され、ドット表示部には、定常光、フラッシュ光(点滅表示)それぞれ単独の値と全光量の3つがドット表示されますが、場合によってはその区別はつかないことがあります。又、全光量に対するフラッシュ光成分比を10%ステップの数値にて表示します。(P34 参照)

## 2-1 フラッシュ光コード接続モードの測定

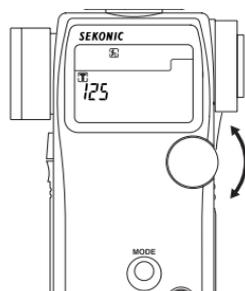
フラッシュと本機をシンクロコードで接続して測定を行う方法でフラッシュとの同調を確実にしたい場合や、フラッシュバルブ(閃光電球)の測定のために使用します。

1) フラッシュのシンクロコードを本機のシンクロターミナル⑧に接続します。



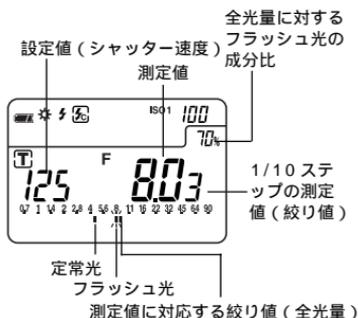
2) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回してフラッシュ光コード接続モードに切り換えます。

3) 設定/変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。



## 5. 測定

- 4) 測定ボタン⑭を押すと、フラッシュが発光し、そのときの測定値(絞り値)が表示されます。



**警告**

乳幼児等が誤ってシンクロターミナルキャップを飲み込まないように手の届かない場所に置いてください。窒息の危険があります。



**注意**

雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は、感電の危険がありますのでシンクロターミナルキャップを外さずに、「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

**ご注意**

シンクロターミナルにシンクロコードを接続するときや本機の電源ボタンを操作した場合フラッシュによっては発光する場合があります。

極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「フラッシュ光コードレスモード」で測定してください。(P28 参照)

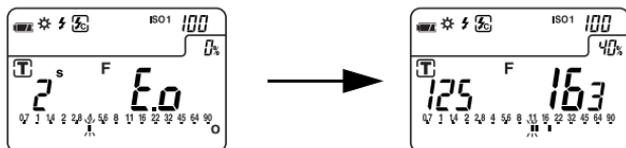
フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときは、同調範囲を確認してシャッター速度を設定してください。

## ご参考

- ・シャッター速度の段数はカスタムセッティング機能により、1段、1/2段、1/3段毎のステップに切換えることができます。(P47参照)
- ・設定できるシャッター速度は30分、25分、20分、.....1分、50秒、45秒.....1秒、0.8秒、0.7秒.....1/3、1/4、.....1/60、1/80、1/90、1/100、1/125、1/160、1/180、1/200、1/250、.....1/750、1/800、1/1000秒の次に1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、1/400秒が設定できます。
- ・測定後に、フィルム感度を変えると、換算した新たな測定値(絞り値)が表示されます。
- ・測定後にシャッター速度を変えると、それに対応する絞り値を表示します。
- ・本機の測定可能な明るさ範囲内であっても、設定されたシャッター速度に対応する絞り値がE.oまたはE.uの表示をすることがあります。次頁の方法でシャッター速度を調整するか、再測定をしてください。
- ・絞りまたはゼロ目スケールはモード設定ボタンを押しながらアベレージ/モニターボタンを押すことにより切り替えられます。

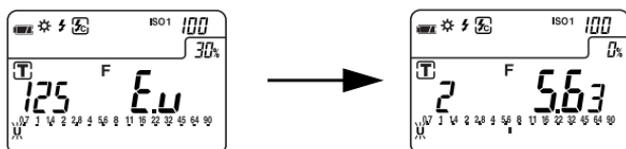
## 5. 測定

表示範囲を超えてオーバー（E.o）のときは、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して、シャッター速度をカメラが同調する範囲内の高速側に変更するか、フラッシュの光量を弱くし、再測定を行うと測定値（絞り値）を表示させることができます。



定常光成分が多い時

表示範囲を超えてアンダー（E.u）のときは設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を低速側に変更する、フラッシュの光量を強くする、または、積算モードにし、再測定を行うと測定値（絞り値）を表示させることができます。



定常光成分が少ない時

本機の測定可能範囲を越える明るさ（または暗さ）の時はE.o（またはE.u）が点滅表示し測定できません。

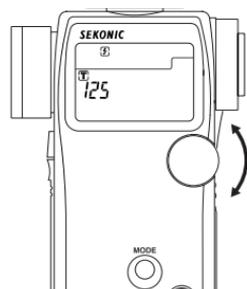
この場合はフラッシュの光量を調節して再測定してください。



## 2-2 フラッシュ光コードレスモードの測定

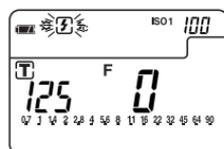
この測定モードは一般的にフラッシュと本機の距離がありシンクロコードが届かないときや、シンクロコードが煩わしいときに使用します。

1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を回してフラッシュ光コードレスモードに切り換えます。



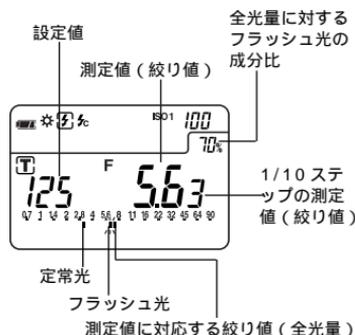
2) 設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。

3) 測定ボタン⑭を押すと、モードマーク⑬が点滅し測定待機状態になります。測定待機状態は約90秒間継続されます。この間にフラッシュ光を発光させ、測定してください。



4) 90秒間を経過し点滅が消えた場合は改めて測定ボタンを押すと前回の測定値(絞り値)は0になり、再び測定待機状態になります。

5) フラッシュ光を受光すると測定値(絞り値)が表示されます。測定後も、モードマーク⑬が点滅している間は、測定待機状態ですので、新たな測定が可能となります。



## 5. 測定

### ご注意

フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少ない場合は、光を感知しない時がありますので、そのときは「フラッシュ光コード 接続モード」(P24 参照)にして測定してください。

ラピッドスタート形蛍光灯や特殊な照明下では、まれにこれらの光をフラッシュ光として判別し、測定してしまうことがあります。このような時は「フラッシュ光コード接続モード」(P24 参照)にして測定してください。

測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまうことがありますのでメモリーをするか「フラッシュ光コード接続モード」(P24 参照)を使用してください。

フラッシュバルブは発光波形がなだらかなため、コードレス測定では光を感知しないので必ず「フラッシュ光コード接続モード」(P24 参照)で測定してください。

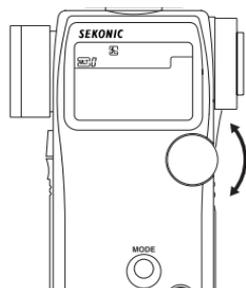
### ご参考

- ・測定後にシャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。
- ・シャッター速度の設定は2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P24 参照)と同様です。
- ・測定後、フィルム感度を変えると換算した新たな測定値が表示されます。
- ・表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P24 参照)と同様です。
- ・絞りまたはゼロ目スケールはモード設定ボタンを押しながらアベレージ/モニターボタンを押すことにより切り替えられます。
- ・本体に三脚ネジがありますので、フラッシュ光コードレスモードを使う場合、三脚またはスタンドに固定すると便利です。

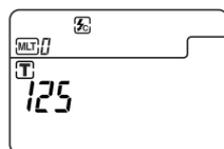
## 2-3 フラッシュ光コード接続積算（マルチ）モードの測定

この測定は1回の発光量では光量が足りないとき、数回発光させそれを積算する毎に適正の絞り値を表示させる方法です。積算回数は無限です。積算回数は10回以上は1桁目だけを表示します。

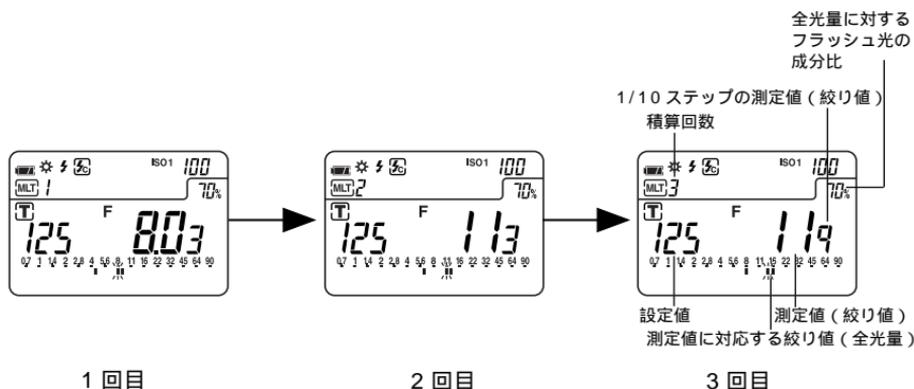
- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回して $\frac{1}{2}$ とMLTのマークが表示された時フラッシュ光コード接続積算測定モードになります。



- 2) 設定/変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。シャッター速度を設定するときは、使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。



- 3) フラッシュのシンクロコードを本機のシンクロターミナル⑧に接続します。
- 4) 測定ボタン⑭を押すと、フラッシュが発光し、絞り値が表示され、これを繰り返す毎に積算された絞り値と積算回数が表示されます。



## 5. 測定

- 5) 積算モードの測定値をリセットするには、メモリー解除ボタン  を押すか、モード設定ボタンを押しながら設定 / 変換ダイヤルを回転させ、モードを一度切り換えて戻してください。



注意

雨中、水しぶきがかかる場所や水気のあるところ、濡れた手で扱う等の場合は、感電の危険がありますのでシンクロターミナルキャップを外さずに、「フラッシュ光コードレスモード」での測定をお勧めします。

ご注意

シンクロターミナルにシンクロコードを接続するときや本機の電源ボタンを操作した場合フラッシュによっては発光する場合があります。

フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときは同調範囲を確認してシャッター速度を設定してください。

フラッシュバルブ(閃光電球)を発光させて測定するときはその都度フラッシュバルブ(閃光電球)を新しく交換してください。極端にトリガー電圧が低いフラッシュ等では、発光しない場合があります。この場合は「フラッシュ光コードレス積算モード」で測定してください。(P32 参照)

ゼロ目スケールは表示できません。

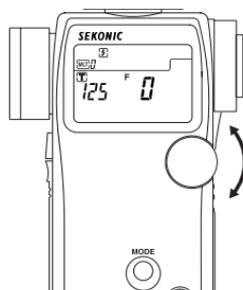
ご参考

- ・シャッター速度の設定は、2-1 項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定 (P26 参照) と同様です。
- ・表示範囲外オーバー / アンダー及び測定範囲外オーバー / アンダーについては、2-1 項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定 (P27 参照) と同様です。
- ・測定後、ISO 感度を変えると換算した新たな測定値 (絞り値) が表示されます。

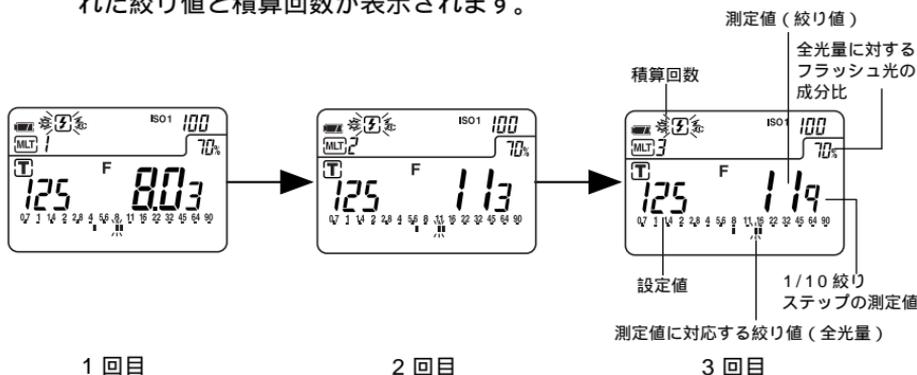
## 2-4 フラッシュ光コードレス積算（マルチ）モードの測定

この測定は1回の発光量では光量が足りないとき、数回発光させそれを積算する毎に適正な絞り値を表示させる方法です。積算回数は無限です。積算回数は10回以上は1桁目だけを表示します。

- 1) モード設定ボタン⑩を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を回して  $\frac{1}{2}$  と **MLT** のマークが表示されたときフラッシュ光コードレス積算モードになります。



- 2) 設定 / 変換ダイヤルを回してシャッター速度を設定します。  
シャッター速度を設定するときは使用機材の同調範囲をあらかじめ確認して設定してください。
- 3) 測定ボタン⑭を押すとモードマーク  $\frac{1}{2}$  が点滅し、測定待機状態になります。測定待機状態は約90秒間続行されます。  
この間にフラッシュを発光させて測定してください。
- 4) フラッシュを受光すると、絞り値が表示され、これを繰り返す毎に積算された絞り値と積算回数が表示されます。



## 5. 測定

- 5) 90秒間を経過し点滅が消えた場合、改めて測定ボタンを押すと前回までの測定値(絞り値)は0になり再び待機状態となります。

### ご注意

フラッシュを発光させても周囲光に比べてフラッシュの光量が少ない場合は、光を感知しない時がありますので、そのときは「フラッシュ光コード接続積算モード」(P30参照)にして測定してください。

ラピッドスタート形蛍光灯や特殊な照明下では、まれにこれらの光をフラッシュ光として判別し、測定してしまうことがあります。このような時は「フラッシュ光コード接続積算モード」(P30参照)にして測定してください。

測定待機中にフラッシュを発光させなくても、受光部に急激な光の変化が起きると測定してしまうことがありますのでメモリーをするか「フラッシュ光コード接続積算モード」(P30参照)を使用してください。

フラッシュバルブ(閃光電球)は発光波形がなだらかなため、コードレス測定では光を感知しないので必ず「フラッシュ光コード接続積算モード」(P30参照)にして測定してください。

ゼロ目スケールは表示できません。

### ご参考

- 表示範囲外オーバー/アンダー及び測定範囲外オーバー/アンダーについては、2-1項の「フラッシュ光コード接続モード」の測定(P27参照)と同様です。
- 測定後、ISO感度を変えると換算した新たな測定値が表示されません。
- 測定後、シャッター速度を変えるとそれに対応する絞り値を表示します。

## 2-5 分離測光機能

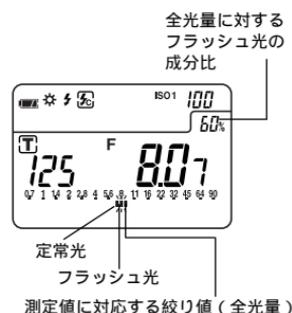
1回の測定でフラッシュ光と定常光の割合を表示します。フラッシュ光を測定すると、液晶表示部にシャッター速度と絞り値（定常光とフラッシュ光をミックスした値 = 全光量）が表示され、ドット表示部には定常光、フラッシュ光（点滅表示）それぞれ単独の値と全光量の3つがドット表示されますが、場合によってはその区別はつかないことがあります。

又、全光量に対するフラッシュ光成分比を10%ステップの数値にて表示します。

この数値によって例えば、タングステンランプで照明されている室内のフラッシュ撮影時に、タングステン光（定常光）を強調したり、弱めたり（フラッシュ光の影響を強くする）して作画意図に合わせて調整することができます。

## 例

ある測定条件でフラッシュ光成分が60%、タングステン光成分が40%の場合右図の様になります。このとき、アナログスケール上で、フラッシュ光と全光量の二つの値が点滅しますが、フラッシュ光の値は全光量よりも早い間隔で点滅します。

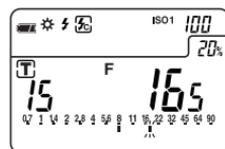


## 1) タングステン光（定常光）を強調したい場合（雰囲気をおранже色の感じにしたい場合）

- ・ タングステン光の比率を上げるために設定 / 変換ダイヤル⑤でシャッター速度を低速側に変えていきます。

フラッシュ光成分が20%になったことが分かります。ドット表示部ではフラッシュ光成分より定常光成分の方が約2.5段多いことが分かります。

結果フィルム上にはタングステン光の雰囲気を生かしたオレンジ色の感じで表現されます。



（ファインダー内表示）

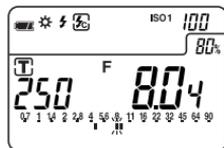
## 5. 測定

- 2) タングステン光(定常光)の影響を少なくしたい場合(自然な雰囲気にした場合)

タングステン光の比率を下げるために設定/変換ダイヤル⑤でシャッター速度を高速側に変えていきます。

フラッシュ光成分が80%になったことが分かります。ドット表示部ではフラッシュ光成分が定常光成分より約1.5段多いことが分かります。

結果フィルム上には自然な色で表現されます。



上記ではシャッター速度によりタングステン光(定常光)を調整して決めましたが、フラッシュ光を調整(フラッシュと被写体との距離を変える場合やフラッシュの光量を変える場合)して比率を変える方法もあります。この方法で行う場合はフラッシュ光を調整した毎に再測定してください。

## 1. メモリー機能

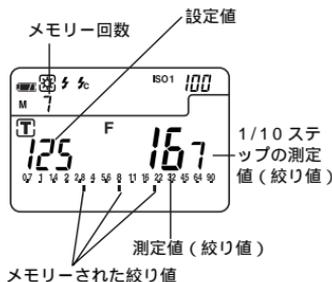
本機は9点までの測定値をメモリーできます。この機能は、定常光シャッター速度優先、絞り優先、EV 値、フラッシュ光（コード接続、コードレス）のモードのとき使用できます。入射 / 反射光式に関わらずメモリーとメモリー表示が可能です。例えば、入射光式でメモリーした後に、反射光式に切り替えても、入射光式でメモリーした値はそのまま残り、新たに反射光式のメモリー値が表示できます。

1) 測定ボタン⑭を押して測定します。現在の測定値がアナログスケール上で点滅します。

2) メモリーボタン⑦を押して、測定値をメモリーすると、アナログスケール上のメモリーされた値は点滅から点灯に変わります。液晶表示部に測定値とメモリー回数がデジタル表示され、さらに絞り値又はシャッター速度の値がドット表示されます。

この操作を繰り返すことにより9回までメモリーできます。

3) メモリーの解除は、メモリー解除ボタン⑳を押すかまたは、測定モードを切り換えることにより解除されます。



## ご参考

- ・メモリークリアボタンを押す度に、最後にメモリーされた値がクリアされます。メモリーされたすべての値をクリアしたい場合には、モード設定ボタンを押しながらメモリークリアボタンを押します。

## 6. 機能

---

- 4) メモリーリコールモードに入るには、モード設定ボタン⑩を押しながら、メモリーボタンを押します。このとき、「M」とメモリー回数が点滅します。設定/変換ダイヤル⑤を回すと、メモリーされた値を呼び出すことができます。メモリーリコールモードを解除するには、再度、モード設定ボタンを押しながら、メモリーボタンを押します。この時、「M」とメモリー回数が点滅から点灯になります。

### ご注意

フラッシュ光積算モードを使用しているときはメモリー機能を使用することはできません。  
10回以降、測定値は表示されますが、メモリーはできません。

### ご参考

- ・メモリーリコール中にメモリークリアボタンを押すと、その時にリコール表示されている値のみクリアされます。

## 2. アベレージ機能

メモリーされた 9 点までの測定値を平均し表示します。

この機能は、定常光シャッター速度優先、絞り優先、EV 値、フラッシュ光（コード接続、コードレス）のモードのとき使用できます。

1) 測定ボタン⑭を押して測定します。アナログスケール上の測定値(ドット)が点滅します。

2) メモリーボタン⑦を押して、測定値をメモリーします。アナログスケール上のメモリー値(ドット)が点滅から点灯になります。

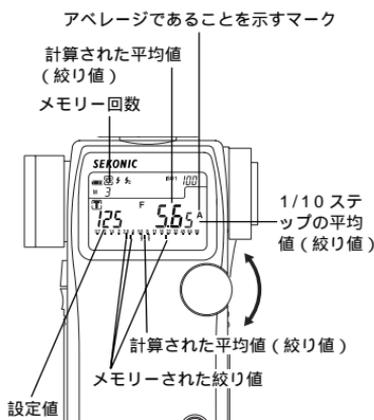
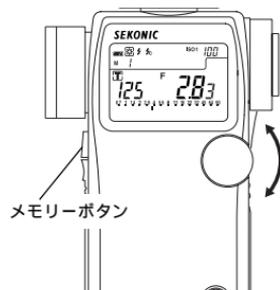
3) 1). 2) を繰り返して 9 点までメモリーできます。

4) アベレージ/モニターボタン④を押すとメモリーされた 9 点までの測定値の平均値がデジタル表示されます。

尚、アナログスケール部にもメモリー値と平均値が表示され、平均値のドットが点滅します。

このとき液晶表示部にアベレージであることを示す「A」が表示されます。

5) アベレージ解除はアベレージ/モニターボタンを押すと解除できます。



## ご参考

- ・ゼロ目スケールが選択されているときは、平均値は 0 (ゼロ) のところにドット表示されます。

## 6. 機能

### 3. モニター機能

スタジオでのライティングの確認や照明ムラのチェックを行う時に便利な機能です。

あるポイントでの測定値を基準とした後、比較したい箇所で測定ボタン⑭を押している間、基準値とその箇所の差をEV値（数値）とF値（ドット）で表示します。

モニター機能を使つての照明比測定例（入射光式でのシャッター速度優先モードの場合）

主光源と補助光源の照明比を測定するとき、光球を下げて平板機能を使用して測定します。

- 1) 光球上下リング①を回して△マークの位置にします。



- 2) 主光源のみ点灯させます。

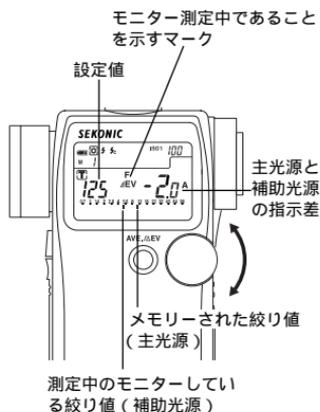
被写体位置で受光部を主光源に向けて測定し、メモリーボタン⑦を押して測定値をメモリーします。



- 3) アベレージ/モニターボタン④を押して液晶表示部に「A」のマークを表示させてください。

- 4) 次に補助光源のみ点灯します。

この状態で光球部を補助光源に向けて、測定ボタンを押している間、主光源と補助光源の指示差が、EV値で表示されます。同時にメモリー値、モニター値がドット表示部に表示され照明比（コントラスト）を求めることができます。



測定値のEV差	照明比
1	2 : 1
1.5	3 : 1
2	4 : 1
3	8 : 1
4	16 : 1

- 5) モニター解除は、アベレージ/モニターボタン④を押すと「A」が消え、解除できます。

## ご参考

- ・ 入射光測定時の露出決定は、主光源と補助光源を点灯し光球を☉マークの位置にしてカメラの光軸に向けて測定します。
- ・ この機能は反射光測定時にも使用できます。
- ・ 絞りまたはゼロ目スケールはモード設定ボタンを押しながらアベレージ/モニターボタンを押すことにより切り替えられます。

## 6. 機能

### 4. 簡易照度計としての使い方 (L-758D)

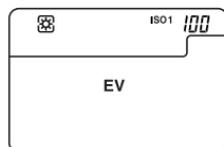
1) 光球上下リング①を回して△マークの位置にします。

2) 指示値補正 (P43 参照) は解除 ( $\pm 0$ ) し、カメラ露出プロファイルの表示補正值 (P53 参照) も解除してあることを確認してください。

3) EV 値モードに設定し、ISO100 にセットします。

4) 測定したい面と受光部が平行になるようにして測定します。

5) 下記の換算表を用い、測定したEV値から照度 (ルクス) を求めてください。



EV 値 LUX 換算表

EV小数項 EV整数項	0	0.5	EV小数項 EV整数項	0	0.5
- 2	0.63	0.88	9	1300	1800
- 1	1.3	1.8	10	2600	3600
0	2.5	3.5	11	5100	7200
1	5	7.1	12	10000	14000
2	10	14	13	20000	29000
3	20	28	14	41000	58000
4	40	57	15	82000	120000
5	80	110	16	160000	230000
6	160	230	17	330000	460000
7	320	450	18	660000	930000
8	640	910	19	1300000	1900000

### ご参考

- ・ L-758CINE はカスタムセッティング機能を利用すると LUX または FC (フットキャンドル) 表示が直読できます。(P47 参照)

## 5. 簡易輝度計としての使い方 (L-758D)

- 1) 指示値補正 (P43 参照) は解除 ( $\pm 0$ ) し、カメラ露出プロファイルの表示補正值 (P53 参照) も解除してあることを確認してください。
- 2) 反射光式の EV モードに設定し、ISO100 にセットします。
- 3) ファインダーを覗き、測定したい部分がサークル内に入るようにして測定します。
- 4) 下記の換算表を用い、測定した EV 値から輝度 ( $\text{cd}/\text{m}^2$ ) を求めてください。

EV 値  $\text{cd}/\text{m}^2$  換算表

EV小数項 EV整数項	EV小数項		EV小数項 EV整数項	EV小数項	
	0	0.5		0	0.5
1	0.25	0.35	11	260	360
2	0.5	0.7	12	510	720
3	1	1.4	13	1000	1400
4	2	2.8	14	2000	2900
5	4	6	15	4100	5800
6	8	11	16	8200	12000
7	16	23	17	16000	23000
8	32	45	18	33000	46000
9	64	91	19	66000	93000
10	130	180			

## ご参考

- ・ L-758CINE はカスタムセッティング機能を利用すると  $\text{cd}/\text{m}^2$  または、FL (フートランパート) の表示が直読できます。(P47 参照)

## 6. 機能

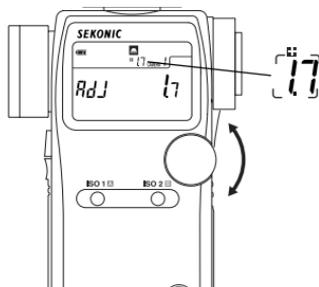
### 6. 指示値補正機能の使い方

本機は当社の基準により標準的な校正がされていますが、特に必要な場合（フィルター補正、ハイライト・シャドー基準など）は、 $\pm 9.9\text{EV}$ の範囲で補正できます。

まず、指示値補正を行いたい測定モード（入射光式または反射光式）を設定します。補正は入射 / 反射それぞれ独立して設定できます。

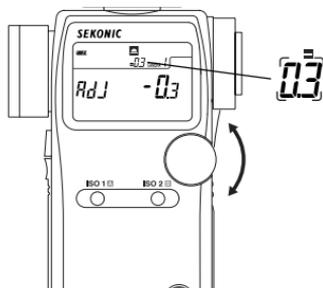
プラス補正の場合 撮影した時露出オーバーになります。

ISO1 設定ボタン⑪とISO2 設定ボタン⑥を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を反時計方向に回転すると、指示値が  $+ 0.1\text{EV}$  毎に  $+ 9.9\text{EV}$  まで補正できます。



マイナス補正の場合 撮影した時露出アンダーになります。

ISO1 設定ボタン⑪とISO2 設定ボタン⑥を押しながら、設定 / 変換ダイヤル⑤を時計方向に回転すると、指示値が  $- 0.1\text{EV}$  毎に  $- 9.9\text{EV}$  まで補正できます。



### ご注意

補正する時は、十分なテスト撮影の結果を元にご自分の好みに合わせて補正してください。

補正は、入射と反射は独立して設定できますが、定常光 / フラッシュ光は、一律に補正されますのでご注意ください。

## ご参考

- ・補正されている場合は、液晶表示部に ・マーク及び補正量が常時表示されています。補正量の表示がわずらわしい方はカスタムセッティング機能を利用すると補正量は表示されません。(P47 参照)
- ・従来のセコニックの設定方法にするには、カスタムセッティングモードにて、設定番号 13. 項目番号 1 に選択すると、プラス補正を露出アンダー(絞りまたはシャッター速度を増加 = プラスにすると、露出アンダーになる)および、マイナス補正を露出オーバー(絞りまたはシャッター速度を減少 = マイナスにすると、露出オーバーになる)とすることができます。

## 6. 機能

### 7. フィルター設定について

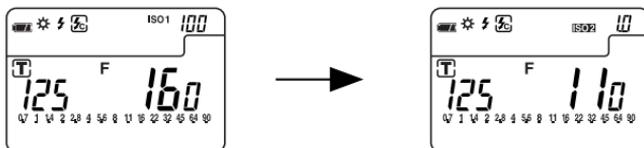
#### 7-1 フィルター設定 (1)

ご使用するフィルターの補正量が1/10ステップで±5EVの範囲内で設定できます。また、ハイライトやシャドウ基準で測定した値の補正も可能です。ISO2 設定ボタン⑥を押している間、設定されている補正量に対応した測定値を表示します。

- 1) カスタムセッティングモードで設定番号1と項目番号1を選択してください。(P47 参照)
- 2) ISO2 設定ボタンを押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回転し、希望する補正量を設定します。

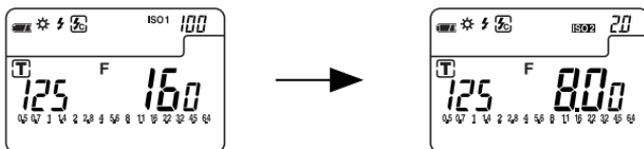
#### フィルター補正をする場合

露出倍数が1段の補正量のフィルターをカメラに取り付けた場合、ISO2 設定ボタンを押しながら、設定/変換ダイヤルを回転し、ISO2 のところの値が「1.0」と設定する。



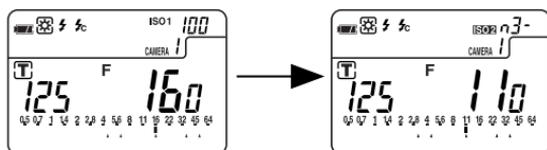
#### ハイライト基準で測定した値を補正する場合

ハイライト部を測定し、その値を2段プラス補正する場合、ISO2 設定ボタンを押しながら、設定/変換ダイヤルを回転し、ISO2 のところの値が「2.0」と設定する。



## 7-2 フィルター設定(2)(L-758CINEのみ)

- 1) 映画撮影時に使用頻度の高い7種類のフィルターが設定できます。
- 2) カスタムセッティングモードで設定番号1と項目番号2を選択してください。(P47 参照)
- 3) ISO2 設定ボタン⑥を押しながら、設定/変換ダイヤル⑤を回転し希望する7種類の記号から選択します。
- 4) フィルター補正されているとISO2 設定ボタンを押している間、フィルターの記号と補正されたF値または、EV値が表示されます。



## 使用フィルターと液晶表示及び補正量

フィルターNo.	85	ND0.3	ND0.6	ND0.9	85N3	85N6	85N9
液 晶 表 示	85 -	n3 -	n6 -	n9 -	A3 -	A6 -	A9 -
補正量 (EV値)	- 0.7	- 1	- 2	- 3	- 1.7	- 2.7	- 3.7

(フィルター No. はコダック株式会社製ラッテンフィルター No. です。)

## 6. 機能

### 8. カスタムセッティング機能

必要とする機能をあらかじめ設定しておくことができます。(P48 参照)

#### カスタムセッティング機能一覧

設定番号	対応機種	カスタムセッティング名	項目番号			
			0	1	2	3
1	758D	ISO2 機能設定	フィルム感度 1/3SV	フィルタ設定1 0.1EV (±5EV)	—	—
	CINE		フィルム感度 1/3SV	フィルタ設定1 0.1EV (±5EV)	フィルタ設定2 フィルタ名 (7種類)	—
2	758D&CINE	指示補正值表示設定	表示	非表示	—	—
3	758D&CINE	測定ステップ設定	1ステップ	1/3ステップ	1/2ステップ	—
4	758D&CINE	優先モード設定	T優先+F優先	T優先	F優先	—
5	758D&CINE	E Vモード設定	非表示	表示	—	—
6	758D&CINE	フラッシュ積算モード設定	非表示	表示	—	—
7	758D&CINE	再現領域表示	5点表示	内側ドット表示	外側ドット表示	非表示
8	758D&CINE	マスターメモリ非選択時基準	初回メモリ値	測定データ	最終メモリ値	—
9	758D&CINE	アベレージ計算方法	加重平均	単純平均	—	—
10	758D&CINE	データ保存	表示	非表示	—	—
11	758D&CINE	オートパワーオフ	20分	10分	5分	無
12	758D&CINE	ダイヤル回転時設定方向	時計回り-	時計回り+	—	—
13	758D&CINE	補正值 +/- の定義	光量	露出値	—	—
2	CINE	照度・輝度の表示モード	複合+単独	複合	単独	—
15	CINE	照度測定モード設定	LUX、FC	LUX	FC	非表示
16	CINE	輝度測定モード設定	cd/m <sup>2</sup> 、FL	cd/m <sup>2</sup>	FL	非表示
3	758D&CINE	測光ボタン・メモリボタン切換え設定	標準	逆設定	自動切換え	—

1 すべてのモードで端数が 1/10 ステップで表示されます。

2 単独

複合

・LUX                      ・LUX+T+F

・FC                        ・FC+T+F

・cd/m<sup>2</sup>                  ・cd/m<sup>2</sup>+T+F

・FL                        ・FL+T+F

で表示します。

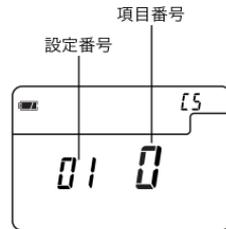
3 自動切換え：入射光式では、測定ボタンとメモリボタンが標準配置となり、反射光式では自動的にボタン配置が逆になります。

#### ご参考

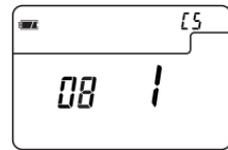
・項目番号の初期設定は 0 になっています。

1) カスタムセッティングモードにするには、モード設定ボタン⑩を押しながら、電源ボタン⑫をONにしてください。

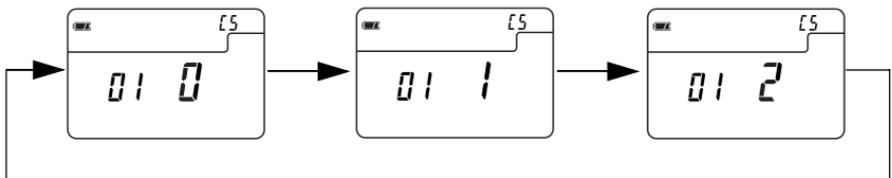
2) カスタムセッティングモードになると、ISO表示部にカスタムセッティングを示す「CS」、シャッター速度表示部に設定番号 (L-758DRの設定番号は01～13まで、L-758CINEの設定番号は01～16まで)、絞り値表示部に項目番号 (0、1、2、3) が表示されます。



3) 設定/変換ダイヤル⑤を回転して、希望する設定番号を (カスタムセッティング名) 選択してください。(P47 参照)



4) モード設定ボタン⑩を押すごとに項目番号が変更できます。



5) カスタムセッティングモードでモード設定ボタン⑩とメモリ解除ボタン⑳を同時に押すと、全ての設定内容が初期設定に戻ります。

6) カスタムセッティング終了後、電源ボタンをOFFにしてカスタムセッティングモードを終了してください。この操作で電源も自動的に切れません。

## 7. カメラ露出プロファイル

---

### 1. カメラ露出プロファイルとは

- 1) ご使用となるデジタルカメラが持つ固有の再現領域、許容範囲を露出計で表示させることができます。
- 2) 露出計でよりシビアな露出を表示させるため、ご使用となるカメラやレンズのシャッタースピード、絞り値など固有のバラツキを記憶し露出表示に反映させます。

L-758D/L-758CINE は異なる3種類までのデジタルカメラのプロファイルを表示することが可能です。

設定できる項目は以下の内容となります。

表示補正值      単体露出計と特定のカメラの表示値（絞り値とシャッタースピード）との差を補正する量。  
【 ± 5EV で設定可能】      1

許容範囲（ - ）      中間濃度から質感が再現できる限界までの範囲。  
【 - 7EV ~ ± 0EV で設定可能】      1

再現領域（ - ）      中間濃度からディテールの描写が再現されているシャドー側の範囲。  
【 - 7EV ~ ± 0EV で設定可能】      1

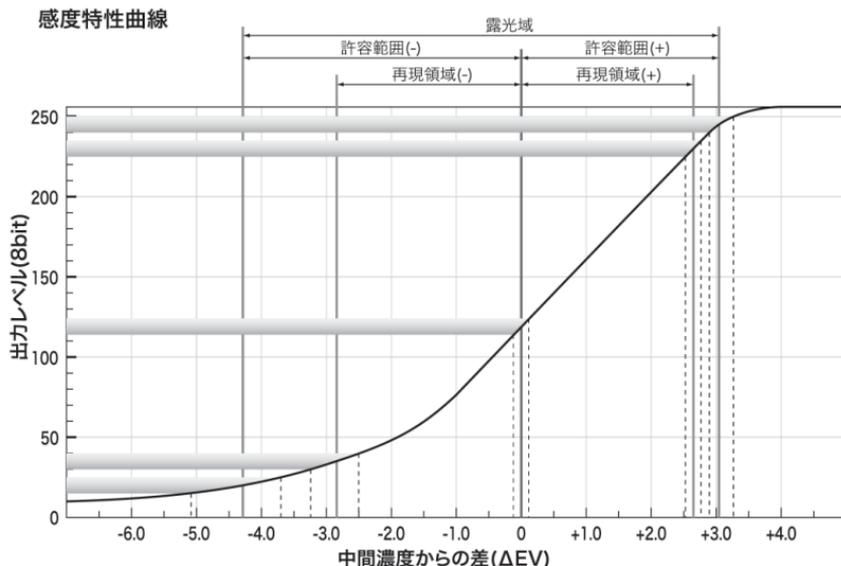
再現領域（ + ）      中間濃度からディテールの描写が再現されているハイライト側の範囲。  
【 ± 0EV ~ + 7EV で設定可能】      1

許容範囲（ + ）      中間濃度から質感が再現できる限界までの範囲。  
【 ± 0EV ~ + 7EV で設定可能】      1

1 上記の設定範囲は、本体でマニュアル入力する場合に限ります。

Data Transfer Softwareをお使いになる場合は、テスト撮影した画像データのRGBより自動的に算出されるため、任意の値の設定はできません。

## 7. カメラ露出プロフィール



この機能を使用するためには、事前にテスト撮影を行っていただき、ご使用のカメラの特性を調べていただくことが必要となります。

### ご参考

・詳しい内容については、本製品に添付されているCD-ROMのソフトウェアガイドをご覧ください。

### ご注意

添付のCD-ROMに入っているアプリケーションソフトとソフトウェアガイド(テスト撮影方法、画像分析方法)は主にデジタルスチール(写真)用となっております。

## 7. カメラ露出プロフィール

### 2. カメラ露出プロフィールの設定について

テスト撮影により得られた結果を露出計に入力します。入力方法は付属している CD-ROM からアプリケーションソフトをお手持ちのパソコンにインストールした上でパソコンと露出計をUSBケーブルで接続して行う方法と露出計に直接入力する方法とが有ります。

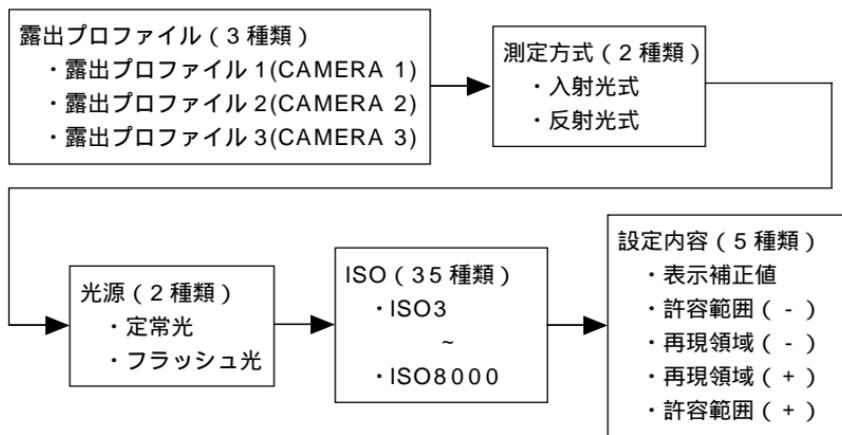
#### 2-1 アプリケーションソフト

L-758D、L-758CINEには「Data Transfer Software」というアプリケーションソフトが添付されています。

Data Transfer Softwareは、カメラ露出プロフィールを作成し、露出計本体へカメラ露出プロフィールを転送するためのアプリケーションソフトです。

##### 2-1-1 ソフトの概要説明

1) ソフトによるテスト撮影データの自動計算により、以下の項目のプロファイルが簡単に作成されます。



#### ご参考

・ 詳しい内容については、本製品に添付されている CD-ROM のアプリケーションソフトウェアガイドをご覧ください。

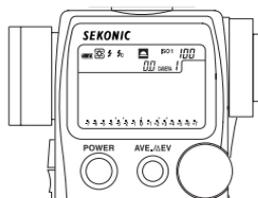
## 7. カメラ露出プロフィール

### 2-2. 露出計へのマニュアル入力

露出計に直接設定データを入力することが可能です。

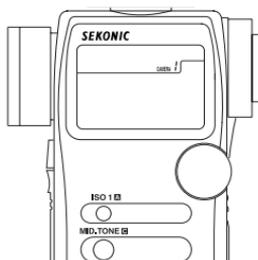
1) カメラ露出プロフィール設定モードにするには、電源OFFの状態から、アベレージ/モニターボタン を押しながら電源ボタン をONにしてください。

2) カメラ露出プロフィール設定モードに入ると、現在の(または初期設定の)内容が表示されます。



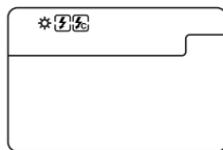
3) カメラ 1 ~ 3 の設定

ISO1 設定ボタン を押しながらミッドトーンボタン を押して、設定するカメラ番号を選択します。



4) 測定モードの設定

モード設定ボタン を押しながら、設定/変換ダイヤル を回して設定するモード、定常光またはフラッシュ光(コード接続・コードレス)を選択します。



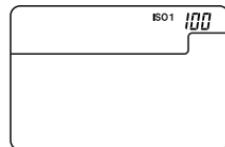
5) 受光方式の設定

入反射切り換えダイヤル を回して、設定する受光方式(入射光式または反射光式)を選択します。



6) ISO 感度の設定

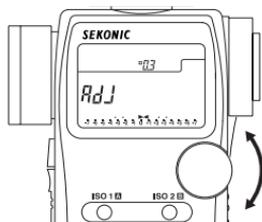
ISO1設定ボタン を押しながら設定/変換ダイヤル を回して、設定するフィルム感度を選択します。



## 7. カメラ露出プロフィール

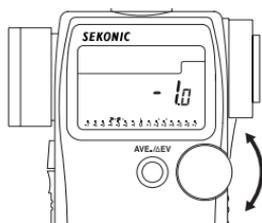
### 7) 表示補正值の設定

ISO1 設定ボタン と ISO2 設定ボタン  
を押しながら設定 / 変換ダイヤルを回して、  
表示補正值の設定をします。  
( ± 5EV を 1/10 ステップで設定可能 )



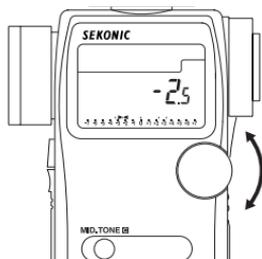
### 8) 許容範囲(-)の設定

アベレージ / モニターボタン を押しなが  
ら設定 / 変換ダイヤル を回して、許容範  
囲 ( - ) の設定をします。  
( -7EV ~ 0EV まで 1/10 ステップで設定  
可能 )



### 9) 再現領域(-)の設定

ミッドトーンボタンを押しながら設定 / 変  
換ダイヤル を回して、再現領域 ( - ) の  
設定をします。  
( -7EV ~ 0EV まで 1/10 ステップで設定  
可能 )



## ご注意

露出計へマニュアル入力するときに限り、設定する数値は中間濃度からの段数ではなく、再現領域 ( - ) の端からの段数を入力してください。

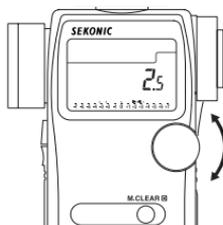
例) 再現領域 ( - ) が - 2.5、許容範囲 ( - ) が - 3.5 の時、入力する許容範囲 ( - ) の数値は 1.0 となります。

## 7. カメラ露出プロフィール

### 10) 再現領域 (+) の設定

メモリー解除ボタン ㉓ を押しながら設定 / 変換ダイヤル を回して、再現領域 (+) の設定をします。

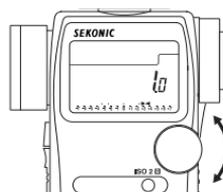
(0EV ~ +7EV まで 1/10 ステップで設定可能)



### 11) 許容範囲 (+) の設定

ISO2設定ボタン を押しながら設定 / 変換ダイヤル を回して、許容範囲 (+) の設定をします。

(0EV ~ +7EV まで 1/10 ステップで設定可能)

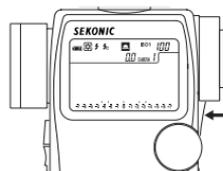


## ご注意

露出計へマニュアル入力するときに限り、設定する数値は中間濃度からの段数ではなく、再現領域 (+) の端からの段数を入力してください。

例) 再現領域 (+) が + 2.5、許容範囲 (+) が + 3.5 の時、入力する許容範囲 (+) の数値は 1.0 となります。

12) 表示している ISO の内容をすべての ISO 値にコピーするには、測定ボタンを押して設定します。



## ご参考

- ・ 現在編集しているカメラ露出プロフィールの内容を設定前に戻すには ISO1 設定ボタン とメモリー解除ボタン ㉓ を同時に押します。
- ・ 設定されているすべてのカメラ露出プロフィール (CAMERA 1 ~ 3) の内容を初期設定に戻すにはモード設定ボタン とメモリー解除ボタン ㉓ を同時に押します。
- ・ カメラ 1 ~ 3 のいずれかを初期設定に戻すには、アプリケーションソフトをお使いください。

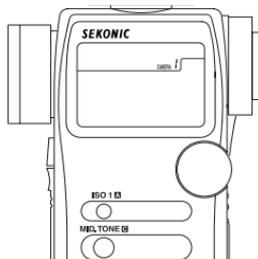
## 7. カメラ露出プロフィール

### 3. 露出計での操作方法

#### 3-1 カメラ露出プロフィールの設定

事前に設定して置いた露出プロフィール (CAMERA1 ~ 3) を呼び出します。

- 1) ISO1 設定ボタン を押しながら、ミッドトーンボタンを押すたびに、「CAMERA1」「CAMERA2」「CAMERA3」「CAMERA1」・・・と呼び出すことができます。



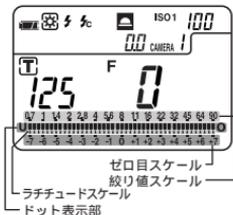
### ご注意

先にミッドトーンボタンを押しながら ISO1 設定ボタンを押すと、最終測定値がミッドトーンとして基準値になってしまうので、必ずISO1設定ボタンを先に押しながらミッドトーンボタンを押すようにご注意ください。

- 2) ご希望の設定番号が表示されるまで同じ操作を繰り返してください。

#### 3-2 アナログスケール

液晶表示部の下端には最終測定値 / メモリー値 / モニター値 / アベレージ値 / 許容範囲・再現領域などを表示するためのスケールがあります。右図のように、アナログスケール部は4つのスケールから構成されています。



##### 3-2-1 絞りスケール

絞り優先以外のすべてのモードで、表示が可能です。絞り値が測定値 (最終測定値 / メモリー値 / モニター値 / アベレージ値) としてスケール上に表示されます。



## 7. カメラ露出プロフィール

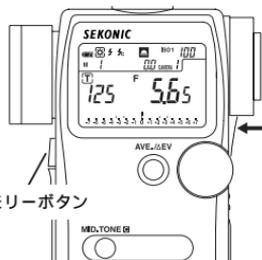
### 3-2-2 ゼロ目スケール

ゼロ目スケールは積算モード以外のモードにおいて表示ができます。モード設定ボタンを押しながらアベレージ/モニターボタンを押すことにより、絞り値スケールとゼロ目スケールの切替ができます。

撮影上のポイントとなる測定点（ミッドトーン）を基準値として記憶、このミッドトーンを基準に $\pm 7$ EV幅で1 / 3EV単位で9点までのメモリー値をドット表示します。

1) 測定ボタン を押して測定を行った後、メモリーボタン 、ミッドトーンボタン 、または、アベレージ/モニターボタン を押しますと、測定値がゼロ目スケールの中心（目盛が0のところ）にドット表示されます。

尚、ミッドトーンボタンでメモリしたときは液晶のラチチュード表示の「▲」が、アベレージ/モニターボタンでメモリしたときは液晶のドット表示の「■」が、点滅表示されます。ミッドトーン(3-2-3項 参照)が設定されていない場合、測定値がゼロ目の中心に表示されます。



メモリーボタン

### ご参考

- ・カスタム設定（P47 参照）により、ミッドトーンを設定していない場合、最後の測定値、最初のメモリー値、または最後のメモリー値の、どの値をゼロ目スケールの中心に表示するか、選択ができます。

2) ラチチュードスケール部には設定されている5つのインジケータ（ ）が表示されています。左から、許容範囲（-）、再現領域（-）、ミッドトーン、再現領域（+）、許容範囲（+）となります。

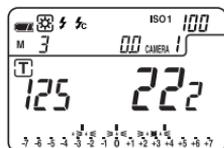


## 7. カメラ露出プロフィール

- 3) 新たな測定を行い、測定値をメモリーすると測定値がドット表示されます。

このとき測定値が再現領域( - )または再現領域( + )を超えているときはインジケータがゆっくりと点滅、許容範囲( - )

または許容範囲( + )を超えている場合は早く点滅をして、設定範囲外であることを警告します。

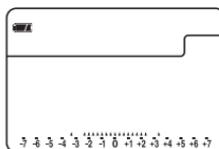


### ご参考

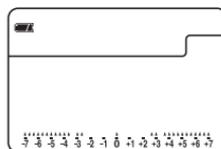
- インジケータの表示方法はカスタムセッティング機能により下記の3種類から選択することができます。(P47 参照)



5点表示



内側ドット表示

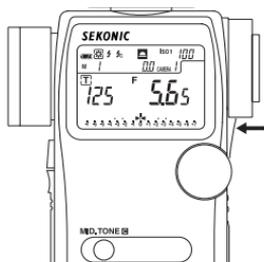


外側ドット表示

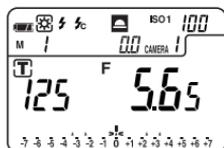
### 3-2-3 Mid.Tone ボタン

カメラ露出プロフィール機能を使用するさい、基準となる中間濃度を設定するためのボタンです。

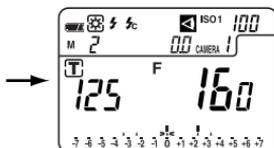
- 1) 測定ボタン を押して、測定を行います。この状態でミッドトーンボタン を押しするとミッドトーンとして登録されます。その際、中央部のインジケータ( ) 2度点滅後、しばらくして再び2度点滅・・・を繰り返します。



- 2) スポット測光でハイライト部または、シャドウ部を測定・メモリーし、再現領域または許容範囲に測定ポイントが収まっているか、もしくはどれくらいの段階で白とび、黒つぶれをしているか確認することができます。



ミッドトーン  
F5.65



ハイライトを測定、メモリー  
F16.0



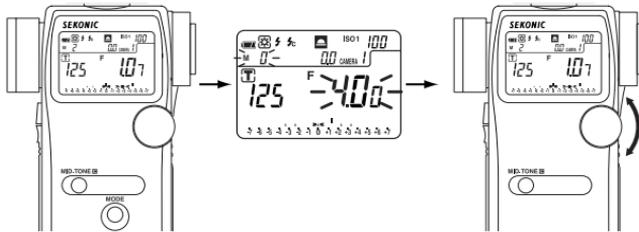
シャドウを測定、メモリー  
F2.03

## 7. カメラの露出プロフィール

- 3) 再現領域または許容範囲外のハイライトまたは、シャドーの値を範囲内に収めるためにミッドトーンを変更する場合、MODE設定ボタン を押しながらミッドトーンボタン を押し、ミッドトーンリコールモードに入ります。このとき、液晶の「M 0」が点滅し、ミッドトーン値が呼び出されます。この状態で、ミッドトーンボタンを押しながら、設定・変換ダイヤルを回し、ご希望の値に設定してください。

### ご注意

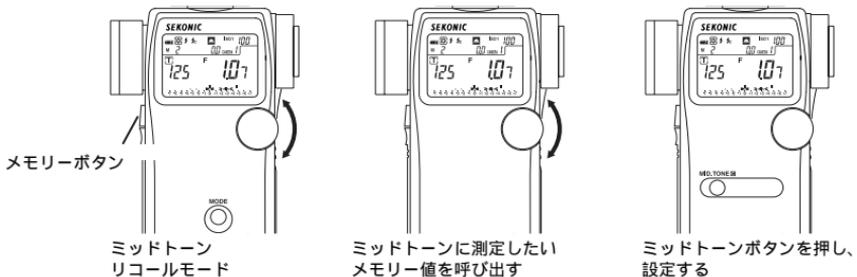
ミッドトーンリコールモード(モード設定ボタンを押しながらミッドトーンボタンを押すと「M 0」が点滅する)に入らずに、ミッドトーンボタンを押しながら設定変換ダイヤルを回すと、最後の測定値がミッドトーンとしてシフトしますのでご注意ください。



ミッドトーンリコールモード

ミッドトーンの調整

- 4) もし、メモリーした複数の値の中からミッドトーンを設定したい場合は、モード設定ボタンを押しながらメモリーボタンを押し、メモリーリコールにした状態で、設定/変換ダイヤルを回して希望のメモリー値を呼び出します。そこでミッドトーンボタンを押すと、その値がミッドトーン値として設定されます。



メモリーボタン

ミッドトーン  
リコールモード

ミッドトーンに測定したい  
メモリー値を呼び出す

ミッドトーンボタンを押し、  
設定する

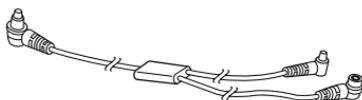
### ご注意

ご使用の機材の種類とご使用状態、基準値としてどの値を採用するかにより、結果に差が生じる場合がございます。設定値で撮影した写真の仕上がり状態がご希望と違う場合があります。このような時は2-2項の「露出計へのマニュアル入力」の測定(P52参照)を実施してみてください。

## 8. 別売アクセサリー

### ・シンクロコード

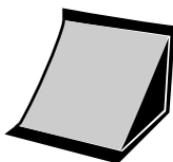
長さ 5m のコードは 3 つのプラグを持ち、露出計、フラッシュとカメラを接続同調させることができますので、撮影する時にもコードを差し換える必要がなく便利です。



又、シンクロコードの一方の接続端子は、ロック機構がついておりますので露出計側に使用すると確実に接続することができます。

### ・標準反射板

18%の反射率を持つグレーカード(110 × 102mm)で、反射率の高い(白い物)低い(黒い物)被写体や著しく異なった反射率をもつ被写体を測定する場合、その影響を受けないようにするため被写体の平均反射率を18%とみなして露光量を決定するときに使用します。



### ・ステップアップリング

ステップアップリング(30.5mm 40.5mm)を別売付属品として用意しましたので、フィルターを取り付けることが可能となりました。これによりPLフィルター等の補正值を計算することなく露出決定ができます。

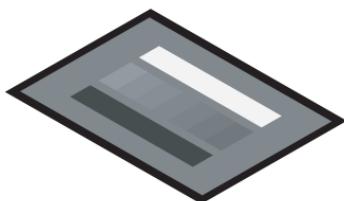


PLフィルターには円偏光と偏光があり、円偏光のみ使用できます。

また、ステップアップリングはレンズ部をキズ、汚れから保護し、レンズフレアやグレアによる誤測光を防ぐフードとして利用いただけます。

### ・露出プロファイルターゲット

カメラ露出プロファイルを作成するために使用するテストチャート(260 × 160mm)です。片方の面は白と黒を含む9種類のグレーパッチがあり、もう片方の面は18%のグレーカードになっていますので、デジタルカメラのホワイトバランスや反射光式での露出決定に使用できます。



- ・ 露出プロファイルターゲット II

Data Transfer Software Ver2.0を使用してカメラ露出プロファイルを作成するために使用するチャートです。1/6EV 間隔で黒から白まで25枚のパッチが印刷されており、一度の撮影で18%グレーを中心に±2EVの濃度を確認することができます。

(サイズ：350mm × 210mm)

尚、チャートとは別に全面18%のグレーカードが1枚付属しています。



## 9. 仕様

形式	● 一眼スポット (1°) 内蔵フラッシュ光及び定常光用デジタル露出計
受光方式	● 入射光式及び反射光式
受光部	● 入射光式 平板機能 (光球を本体内部に移動する機能により平板機能兼用) ● 反射光式 ファインダー内表示搭載一眼スポット (受光角 1°) 測定距離 1m ~
受光素子	● シリコンフォトダイオード
測定方式	● 定常光 絞り優先測定 シャッター速度優先測定 EV測定 簡易照度測定 (L-758CINEのみ) (ルクス、フートキャンドル) 簡易輝度測定 (L-758CINEのみ) (フートランパート、キャンドル/平方メートル) ● フラッシュ光 シンクロコードを用いて測定 (積算あり、なし) シンクロコード無しで測定 (積算あり、なし)
測定範囲 (ISO100)	● 定常光 入射光式 EV - 2 (F2.0、15秒) ~ EV22.9 (約 F31、1/8000秒) 反射光式 EV1 (F2.0、2秒) ~ EV24.4 (約 F52、1/8000秒) ● フラッシュ光 入射光式 F0.5 ~ F161.2 (約 F175) 反射光式 F2.0 ~ F161.2 (約 F175) ● 照度 (L-758CINEのみ直読可) 0.63 ~ 190,000 ルクス 0.10 ~ 180,000 フートキャンドル ]有効 2桁 ● 輝度 (L-758CINEのみ直読可) 0.25 ~ 190,000 キャンドル/平方メートル ]有効 2桁 0.10 ~ 190,000 フートランパート
繰返し精度	● ± 0.1EV 以内
校正定数	● 入射光式 光球 C=340 平板 C=250 ● 反射光式 K=12.5
表示範囲	● フィルム感度 ISO 3 ~ 8000 (1/3ステップ) ● シャッター速度 定常光 30分 ~ 1/8000秒 (1、1/2、1/3ステップ) 他 1/200、1/400秒 設定可能 シネコマ数 (f/s) 2、3、4、6、8、12、16、18、 24、25、30、32、36、40、48、50、60、64、 72、96、120、128、150、200、240、256、 300、360 (シャッター開角度 180°) (L-758CINE追加) 1、10、14、20、75、90、100、125、180、250、375、 500、625、750、1000 (シャッター開角度 180°)

	フラッシュ光	30分～1/1000秒 (1、1/2、1/3ステップ) 他1/75、1/80、1/90、1/100、1/200、 1/400設定可能。
	● 絞り値	FO.5～F161.2 (1、1/2、1/3ステップ)
	● EV値	EV-9.9～EV46.6 (1/10ステップ)
	● アナログ表示部	(L-758D) FスケールFO.7～F90 (1/3ステップ)、 ゼロ目スケール -7.0EV～+7.0EV (1/3ステップ) (L-758CINE) FスケールFO.5～F64 (1/3ステップ)
	● モニター表示	-9.9EV～+9.9EV (1/10ステップ)
	● シャッター開角度	(L-758CINEのみ) 1°～10° (1°ステップ)、15°～270° (5°ステップ)、 他12°、17°、22°、144°、172°
	● フィルター補正 (1)	-5.0EV～+5.0EV (1/10ステップ)
	● フィルター補正 (2)	(L-758CINEのみ) 85-、n3-、n6-、n9-、A3-、A6-、A9-
	● 積算回数	∞回 (下1桁0～9で表示)
	● 補正表示	-9.9EV～+9.9EV (1/10ステップ)
	● 分離測光	0～100% (10%ステップ)
その他の機能	● 生活防水機能	JIS規格 保護等級4級、防まつ (沫) 形
	● メモリー機能	9回まで可能
	● メモリークリア・リコール機能	
	● アペレージ演算機能	
	● 測定範囲外及び 表示範囲外	E.u (アンダー) E.o (オーバー) 警告表示
	● 電池容量表示機能	
	● 自動電源OFF機能 (カスタム設定にて選択可能)	
	● 液晶バックライト (EL) 自動点灯 (EV6以下)	
	● カスタムセッティング機能 14項目 (L-758D)、17項目 (L-758CINE)	
	● 視度補正	-2.5～+1.0ディオプトリー
	● 三脚用ネジ穴付き (1/4in、20山)	
	● ISO 2フィルム感度設定可能	
使用電池	● リチウム乾電池CR-123A (3V) 1本	
使用温度範囲	● -10°C～50°C	
保管温度範囲	● -20°C～60°C	
寸法	● 約90 (幅) × 170 (高さ) × 48 (厚さ) mm	
質量	● 約268g (電池含む)	
標準付属品	● ソフトケース、ストラップ、対物レンズキャップ、シンクローターミナルキャップ、 クイックガイド、マルチキー操作&カスタム設定シール、CD-ROM、 安全上のご注意	

この使用説明書に記載の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。  
 注意 本機 (L-758D、L-758CINE) は、日本国内に於きまして電波モジュールの搭載、使用はできませんので十分ご注意ください。

## 10. 使用上のご注意

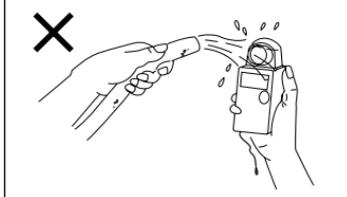
### ご注意

この露出計は日常の生活防水機能（JIS規格 保護等級 4級 防まつ形）を持っていますが、水に浸けたり、水中での使用は避けてください。故障の原因になります。

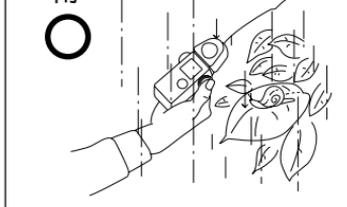
水しぶき



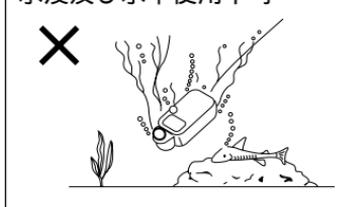
水洗不可



雨



水没及び水中使用不可



落下または急激な衝撃は絶対に避けてください。故障の原因になります。

高温または多湿な場所には保管しないでください。故障の原因になります。

急激な温度変化による結露に注意してください。故障や誤動作の原因になります。

本機の温度が  $-10$  以下になると、液晶表示の応答が非常に遅くなり、表示が読みにくくなります。温度が  $0 \sim 10$  では液晶表示の応答が若干遅くなりますが、ご使用には差し支えありません。また、温度が  $50$  を超えると液晶表示が黒くなり、表示が読みにくくなりますが常温に戻ると元の状態になります。

真夏の直射日光下や暖房設置等の近くに放置すると、気温に比べて本機の温度がかなり上昇することがありますので、このような場所での取り扱いにはご注意ください。

電池ふたを開けたままでの本機のご操作はおやめください。

### お手入れについて

- ・ 水しぶき等を浴びて水滴がついた場合はなるべく早く乾いた布で拭き取ってください。錆びたり腐食の原因となります。
- ・ 電池ふたのゴムパッキンに強い力を加えたり、剥がしたりしないでください。浸水、腐食、故障の原因になります。
- ・ ゴムパッキンやパッキンが当たる面に傷がついたときは、浸水、腐食、故障の原因になりますので、弊社営業部門にご相談ください。
- ・ 本機が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)は、絶対に使用しないでください。

# 1.1. アフターサービスについて

\* 弊社の製品には一定の期間内無償修理をお引き受けする保証書があります。記載事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。

## 保証期間などについて

1. 保証期間はご購入日より1年間です。
2. 保証書にお買い上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
3. 保証期間内でも有償修理となる場合もありますので、保証書の記載事項をお確かめください。
4. 保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。  
補修用部品の保有期間などについて

1. 補修用性能部品は、製造打ち切り後7年間を目安に保有しております。したがって、本期間を過ぎますと修理をお引き受けできないことがあります。
2. 修理完了品には、弊社の修理納品書が発行されますのでお確かめください。
3. 修理可能期間内でも浸冠水、強度のショックその他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われまますものにつきましては、修理不可能となる場合があります。

## 修理ご依頼にあたって

1. 修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。
2. 修理をご依頼されたものの中には単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、(+)(-)の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

## お問い合わせについて

本製品の保証、修理、使い方などのお問い合わせは弊社営業部門にご相談ください。

万一、製造上の不備で生じた不都合につきましては現品をもって保証させていただき、それ以外の責は負いかねます。

## **株式会社 セコニック**

〒178-8686 東京都練馬区大泉学園町 7-24-14

TEL 03-3978-2366 FAX 03-3922-2144

<http://www.sekonic.co.jp>